

独立行政法人家畜改良センターの中期目標期間(平成 23 年度～平成 27 年度)に見込まれる業務の実績に関する評価の項目別評価調書

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第 1	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置（以下「業務運営の効率化」と略記する。）		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0 0 2 8 行政事業レビューシート事業番号：0 0 3 5 行政事業レビューシート事業番号：0 2 7 9

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	業務運営の効率化に関する事項 ＜以下略＞	業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 ＜以下略＞	◎業務運営の効率化に関する目標を達成するため取るべき措置 指標＝「中項目の項目数×2」（満点）に対する「各中項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各中項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	<主要な業務実績> ◎業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○業務対象の重点化 2／2点（B） ○業務の運営の効率化及び組織体制の合理化 2／2点（B） ○経費の削減及び自己収入の拡大 2／2点（B） 合計 6／6点	B	評価 B	評価	
						<評価に至った理由> 下記のとおり、下位の評価項目である中項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8／10≦合計点<12／10)であったため。 満 点：6点(中項目3×2点) 合計点：6点＝2点×3 6点／6点＝1.0(10／10) ○業務対象の重点化 2点（B） ○業務運営の効率化及び組織体制の合理化 2点（B） ○経費の縮減及び自己収入の拡大 2点（B） 合 計 点 6点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	業務対象の重点化 ＜以下略＞	業務対象の重点化 ＜以下略＞	○業務対象の重点化 指標＝「小項目の項目数×2」 （満点）に対する「各小項目の 点数の合計値」（合計点）の比 率 各小項目の評価点数の区分 は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、 B評価：2点、C評価：1点、 D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点＜ 満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点＜ 満点×8/10 D：合計点、＜満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ○業務対象の重点化 ◇家畜の改良増殖業務 の重点化 2／2点 （B） ◇飼料作物種苗の増殖 業務 2／2点 （B） 合 計 4 ／ 4 点	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である小項目 の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／1 0≦合計点＜8／10）であったため。 満 点：4点（小項目2×2点） 合計点：4点＝2点×2 4点／4点＝1.0（10／10） ◇家畜の改良増殖業務の重点化 2点（B） ◇飼料作物種苗の増殖業務 2点（B） 合 計 点 4点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-（1）-ア	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 （1）家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(1) 家畜の改良増殖業務 センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な育種資源を確保し、かかる多様な育種資源を最大限活用することにより、全国的な家畜改良を推進することに重点化する。また、民間や都道府県との役割分担を明確にし、かつ、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新技術を活用することにより、効果的に家畜の改良速度を加速させる。 ＜以下略＞	ア センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間との役割分担を明確にしつつ、これら関係者との連携を強化するとともに、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新たな育種改良技術とセンターが保有する多様な育種資源を最大限活用して全国的な家畜改良を推進するとともに、家畜改良の素材となる種畜の供給について、以下のとおり重点化する。	□種畜供給の重点化 指標＝「微項目の項目数×2」（満点）に対する「各微項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ □種畜供給の重点化 △乳用牛 2／2点（B） △肉用牛 2／2点（B） △豚 2／2点（B） △鶏 2／2点（B） △馬、めん羊及び山羊 2／2点（B） 合 計 10／10点	B	評価 B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／10≦合計点<満点×12／10）であるため。 満 点：8点（微項目4×2点） 合計点：8点＝2点×4 8点／8点＝1.0（10／10） △乳用牛 2点（B） △肉用牛 2点（B） △鶏 2点（B） △馬、めん羊及び山羊 2点（B） 合 計 点 8点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-(1)-ア-(ア)	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 (1) 家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化 (ア) 乳用牛		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(1) 家畜の改良増殖業務 センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な育種資源を確保し、かかる多様な育種資源を最大限活用することにより、全国的な家畜改良を推進することに重点化する。また、民間や都道府県との役割分担を明確にし、かつ、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新技術を活用することにより、効果的に家畜の改良速度を加速させる。 ＜以下略＞	(ア) 乳用牛 泌乳持続性を重視した改良に取り組むとともに、民間との役割分担を明確にするため、候補種雄牛の後代検定への参加については平成25年度末までに民間事業者に移行する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な乳用牛の改良推進に関する会議を開催するとともに、ドナーの3産次までの集合検定の実施などにより、泌乳持続性を重視した改良に取り組んだ。また、民間との役割分担を明確にするため、センターで生産した候補種雄牛の後代検定への参加については、平成23年度に民間事業者に移行し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり業務が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-（1）-ア-（イ）	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 （1）家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化 （イ）肉用牛		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	（1）家畜の改良増殖業務センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な育種資源を確保し、かかる多様な育種資源を最大限活用することにより、全国的な家畜改良を推進することに重点化する。また、民間や都道府県との役割分担を明確にし、かつ、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新技術を活用することにより、効果的に家畜の改良速度を加速させる。 ＜以下略＞	（イ）肉用牛近交係数上昇の抑制や脂肪交雑以外の形質も重視し、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な種畜の生産・供給等に重点化する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な肉用牛の改良推進に関する会議を開催するとともに、近交係数上昇の抑制や早熟性、飼料利用性及び繁殖性など脂肪交雑以外の形質も重視し、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な種畜の生産・供給等に重点化し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり業務が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		＜評価に至った理由＞	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-（1）-ア-（ウ）	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 （1）家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化 （ウ）豚		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	（参考情報）

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）
	（1）家畜の改良増殖業務センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な育種資源を確保し、かかる多様な育種資源を最大限活用することにより、全国的な家畜改良を推進することに重点化する。また、民間や都道府県との役割分担を明確にし、かつ、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新技術を活用することにより、効果的に家畜の改良速度を加速させる。 ＜以下略＞	（ウ）豚 都道府県・民間との役割分担を明確にするため、種雄として直接肉豚生産農家へ供給する業務を平成23年度末までに原則中止し、都道府県・民間への育種改良素材の供給に重点化する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な豚の改良推進に関する会議を開催するとともに、種雄として直接肉豚生産農家へ供給する業務を平成23年度末までに中止した。また、都道府県・民間への育種改良素材の供給に重点化して、都道府県・民間との役割分担の明確化を図り、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 種雄として直接肉豚生産農家へ供給する業務を平成23年度末までに中止するとともに、都道府県・民間への育種改良素材の供給に重点化しており、中期計画どおり業務の重点化が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-(1)-ア-(エ)	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 (1) 家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化 (エ) 鶏		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

[illegible]

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 家畜の改良増殖業務センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な育種資源を確保し、かかる多様な育種資源を最大限活用することにより、全国的な家畜改良を推進することに重点化する。また、民間や都道府県との役割分担を明確にし、かつ、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新技術を活用することにより、効果的に家畜の改良速度を加速させる。	(エ) 鶏 都道府県・民間が行う地鶏等の特色ある鶏の作出を支援するための種鶏の改良、生産及び供給に重点化する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な鶏の改良推進に関する会議を開催するとともに、都道府県・民間が行う地鶏等の特色ある鶏の作出を支援するための種鶏の改良、種鶏・種卵の生産・供給に重点化し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり業務が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-（1）-ア-（オ）	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 （1）家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化 （オ）馬、めん羊及び山羊		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	（1）家畜の改良増殖業務 センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な育種資源を確保し、かかる多様な育種資源を最大限活用することにより、全国的な家畜改良を推進することに重点化する。また、民間や都道府県との役割分担を明確にし、かつ、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新技術を活用することにより、効果的に家畜の改良速度を加速させる。 その際・・・＜中略＞・・・ ほか、馬、めん羊、山羊などの民間や都道府県による取組が限定的なものについても、生産現場でのニーズを踏まえ、改良推進・技術指導について積極的に取り組む。	（オ）馬、めん羊及び山羊 生産現場でのニーズを踏まえ、改良推進・技術指導について取り組む。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 馬、めん羊及び山羊について、意見・情報交換を通じて把握した、発育や繁殖性の向上などの生産現場でのニーズを踏まえ、改良を推進するとともに、育種素材の提供や繁殖・飼養管理技術に係る講習会を開催し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり業務が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-（1）-ウ	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 （1）家畜の改良増殖業務の重点化 ウ 多様な家畜改良等の推進		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
						評価	B	評価	
	（1） 家畜の改良増殖業務センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間では取り組み難い遺伝的に多様な育種資源を確保し、かかる多様な育種資源を最大限活用することにより、全国的な家畜改良を推進することに重点化する。また、民間や都道府県との役割分担を明確にし、かつ、事業規模を厳しく見直してスリム化を図りつつ、都道府県・民間では取り組み難い新技術を活用することにより、効果的に家畜の改良速度を加速させる。 ＜以下略＞	ウ 6次産業化をはじめとする特色ある家畜による多様な畜産経営、消費者ニーズに応える畜産物についての供給を支援するという観点から、肉用牛では日本短角種及び褐毛和種、乳用牛ではブラウンスイス種及びジャージー種について、遺伝的能力評価を実施する等により改良を推進する。また、馬、めん羊、山羊等の民間や都道府県による取組が限定的なものについても、生産現場でのニーズを踏まえ、改良推進・技術指導について積極的に取り組む。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 6次産業化をはじめとする特色ある家畜による多様な畜産経営、消費者ニーズに応える畜産物についての供給を支援するという観点から、肉用牛では日本短角種及び褐毛和種、乳用牛ではブラウンスイス種及びジャージー種について、遺伝的能力評価を実施する等により改良を推進した。また、馬、めん羊、山羊等の民間や都道府県による取組が限定的なものについても、意見・情報交換を通じて把握した、発育や繁殖性の向上などの生産現場でのニーズを踏まえ、育種素材の提供などを通じて改良を推進するとともに、繁殖・飼養管理技術に関する講習会を開催し、計画どおり実施した。	B	評価 ＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり業務が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報				
第1-1-（2）	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 （2）飼料作物種苗の増殖業務			
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028	

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 飼料作物種苗の増殖業務 センターが担う飼料作物種苗の増殖業務については、飼料自給率の向上に向け、我が国の風土に適した国内育成品種の定着を更に進める必要があることから、飼料用原種子の国内需要に的確に対応し、高品質の種子を供給する。このため、品種改良を行う新品種育成機関、二次増殖及び種子の販売を行う民間種苗会社等と連携協力するとともに、役割分担を明確にする。この際、需給動向、新品種の育成状況やニーズを適切に把握し、効率的な生産を行う。	(2) 飼料作物種苗の増殖業務	指標＝「細項目の項目数×2」(満点)に対する「各細項目の点数の合計値」(合計点)の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	<主要な業務実績> ◇飼料作物種苗の増殖業務 □飼料作物種苗の増殖業務 2／2点(B) □役割分担の明確化 2／2点(B) 合 計 4／4点	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8／10≦合計点<12／10)であるため。 満 点：4点(細項目2×2点) 合計点：4点＝2点×2 4点／4点＝1.0(10／10) □飼料作物種苗の増殖業務 2点(B) □役割分担の明確化 2点(B) 合 計 点 4点			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-1-（2）-イ	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 （2）飼料作物種苗の増殖業務 イ 役割分担の明確化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	品種・系統の維持数	概ね100		98	98	97	97	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(2) 飼料作物種苗の増殖業務 センターが担う飼料作物種苗の増殖業務については、飼料自給率の向上に向け、我が国の風土に適した国内育成品種の定着を更に進める必要があることから、飼料用原種子の国内需要に的確に対応し、高品質の種子を供給する。このため、品種改良を行う新品種育成機関、二次増殖及び種子の販売を行う民間種苗会社等と連携協力するとともに、役割分担を明確にする。この際、需給動向、新品種の育成状況やニーズを適切に把握し、効率的な生産を行う。	イ 品種改良を行う新品種育成機関、二次増殖及び種子の販売を行う民間種苗会社等と連携協力の下、役割分担を明確にする。 この際、国をはじめとする関係機関との連携を密にし、需給動向、新品種の育成状況やニーズを適切に把握し、効率的な生産を行う。 これらにより、増殖対象を新品種・系統及び需要の高い品種・系統に重点化し、中期目標期間を通じて毎年概ね100品種・系統を維持する。	指標＝品種・系統の維持数 S：目標値に対する達成割合が110%以上であり、かつ特に優れた成果が認められた場合 A：目標値に対する達成割合が110%以上 B：目標値に対する達成割合が90%以上110%未満 C：目標値に対する達成割合が70%以上90%未満 D：目標値に対する達成割合が70%未満、又は業務運営の改善その他必要な措置を命ずる必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 品種改良を行う新品種育成機関、二次増殖及び種子の販売を行う民間種苗会社等と連携協力の下、役割分担を明確にするとともに、国を始めとする関係機関との連携を密にし、需給動向、新品種の育成状況やニーズを適切に把握し、効率的な生産を行った。これらにより、増殖対象を新品種・系統及び需要の高い品種・系統に重点化し、中期目標期間を通じて毎年概ね100品種・系統を維持し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 民間種苗会社等との役割分担の下、中期計画で示された数の品種・系統が維持されると見込まれることから、「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化など ＜以下略＞	第1－2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化等 ＜以下略＞	指標＝「小項目の項目数×2」（満点）に対する「各小項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各小項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点＜満点×8/10 D：合計点、＜満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ○業務運営の効率化及び組織体制の合理化 ◇業務運営の効率化 2／2点 (B) ◇組織体制の合理化・強化 2／2点 (B) ◇ガバナンスの強化・充実 2／2点 (B) ◇リスク関知の強化 2／2点 (B) ◇情報セキュリティ対策の強化 2／2点 (B) 合計 10／10点	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である小項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8／10≦合計点＜満点×12／10)であったため。 満 点：10点(小項目5×2点) 合計点：9点＝1点＋2点×4 ◇業務運営の効率化 2点 (B) ◇組織体制の合理化・強化 2点 (B) ◇ガバナンスの強化・充実 2点 (B) ◇リスク管理の強化 2点 (B) ◇情報セキュリティ対策の強化 2点 (B) 合 計 点 9点			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾患の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	(1) 業務運営の効率化 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B:満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C:満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ◇業務運営の効率化 ☐ 家畜等の遺伝資源の活用 2／2点（B） ☐ 人材の活用 2／2点（B） ☐ 土地・建物等の有効活用 2／2点（B） ☐ 業務の進行管理 2／2点（B） ☐ 業務の重複の防止 2／2点（B） 合計 10／10点	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／10≦合計点<満点×12／10）であったため。 満 点：10点（細項目5×2点） 合計点： 9点＝1点＋2点×4 9点／10点＝0.9（9／10） ☐ 家畜等の遺伝資源の活用 2点（B） ☐ 人材の活用 2点（B） ☐ 土地・建物の有効活用 2点（B） ☐ 業務の進行管理 2点（B） ☐ 業務の重複の防止 2点（B） 合 計 点 10点	評価 	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-ア	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 ア 家畜等の遺伝資源の活用		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾患の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	ア 家畜等の遺伝資源の活用	指標＝「微項目の項目数×2」(満点)に対する「各微項目の点数の合計値」(合計点)の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	<主要な業務実績> □家畜等の遺伝資源の活用 △家畜遺伝資源の活用 2／2点(B) △飼料作物種苗遺伝資源の保存 2／2点(B) 合計 4／4点	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 下記のとおり、下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8/10≦合計点<満点×12/10)であるため。 満 点：4点(微項目2×2点) 合計点：2点×2＝4点 4点／4点＝1.0＝10／10 △家畜遺伝資源の活用 2点(B) △飼料作物種苗遺伝資源の保存 2点(B) 合 計 点 4点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-ア-(ア)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 ア 家畜等の遺伝資源の活用 (ア) 家畜遺伝資源の活用		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾病的発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	(ア) 家畜改良増殖業務においては、センターが保有する多様な育種資源を活用し、都道府県・民間では取り組み難い新たな育種改良技術を用い、家畜改良の素材となる種畜の生産・供給を行う。(再掲) また、その際、防疫対策を徹底するため、家畜伝染病に関する定期的な検査を実施するとともに、防疫エリアを明確にし、外部から伝染性疾病的要因が侵入しないよう、徹底的な衛生措置を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 家畜改良増殖業務においては、センターが保有する多様な育種資源を活用し、都道府県・民間では取り組み難い高度な育種改良技術を用い、家畜改良の素材となる種畜の生産・供給を行った。(詳細は、中期計画「第2の1の(1)～(5)」該当部分において記載する。)防疫対策を徹底するため、毎年度の衛生検査計画に沿って家畜伝染性疾病的に関する定期的かつ継続的な検査を実施した。防疫エリアについては、「牧場区域」「飼養管理区域」「畜舎区域」を明確にし、外部から家畜伝染性疾病的要因が侵入しないよう衛生管理を行った。平成26年度にセンター本所において豚流行性下痢（PED）が発生したが、速やかな初動防疫により限定的な発生に留めた。	B	評価	B	評価	
						＜判定に至った理由＞ PEDの発生により、外部から伝染性疾病的の要因が侵入しないよう徹底的な衛生措置が達成されなかったものの、主目標である家畜遺伝資源の活用には影響はなく、中期計画どおりの活用が見込まれることから「B」評価とした。 ＜その他の事項＞ センターで「PED」が発生したことに関して「遺伝資源の活用」と「防疫対策の徹底」では、評価項目の主たる目標が異なることに考慮し、メリハリを付けて評価すべき。 (有識者会議委員意見)			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1・2・（1）・ア・（イ）	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （1）業務運営の効率化 ア 家畜等の遺伝資源の活用 （イ）飼料作物種苗遺伝資源の保存		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	（1）業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾患の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	（イ）飼料作物種苗の増殖業務においては、国をはじめとする関係機関との連携を密にし、需給動向、新品種の育成状況やニーズを適切に把握し、効率的な生産を行う。 また、遺伝資源の保存に資するため、多様な飼料作物の遺伝資源について、独立行政法人農業生物資源研究所等の関係機関と連携を図りながら、地域性を考慮し、関係牧場で分担して栄養体保存等を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 飼料作物種苗の増殖業務において、国をはじめとする関係機関との連携を密にし、需給動向、新品種の育成状況やニーズを適切に把握し、効率的な生産を行った。また、遺伝資源の保存に資するため、多様な飼料作物の遺伝資源について、国立研究開発法人農業生物資源研究所等の関係機関と連携を図りながら、地域性を考慮し、関係牧場で分担して栄養体保存等を行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> これまで実績から、中期計画どおり飼料作物遺伝資源の保存が行われると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1・2・（1）-イ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （1）業務運営の効率化 イ 人材の活用		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾患の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	イ 人材の活用 ＜以下略＞	指標＝「微項目の項目数×2」 (満点)に対する「各微項目の点数の合計値」(合計点)の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ □人材の活用 △人事配置 2／2点(B) △組織の合理化・業務の効率化 2／2点(B) △人材の育成 2／2点(B) 合 計 6／6点	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8／10≦合計点<満点×12／10)であるため。 満 点：6点(微項目3×2点) 合計点：6点＝2点×3 6点／6点＝1.0(10／10) △人事配置 2点(B) △組織の合理化・業務遂行の効率化 2点(B) △人材の育成 2点(B) 合 計 点 6点			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-イ-(ア)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 イ 人材の活用 (ア) 人事配置		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
						評価	B	評価
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾病の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	(ア) 職員の適材適所を推進するため、人事配置に当たっては、過去の職歴、業績等を考慮し、業務遂行のための適性や能力を反映した人事配置にするとともに、職責を十分に果たせる人事配置となるよう、人事管理者及び人事企画担当者が業務適性等について多方面から評価・検討し、実施する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 職員の適材適所を推進するため、人事配置に当たっては、職歴、業績等を考慮し、業務遂行のための適性や能力を反映した人事配置を行うとともに、人事異動を行う場合の多方面からの人事企画を精査する機会として人事構想会議や人事企画会議を開催して人事情報を把握し、適性や能力を的確に反映した人事配置を行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	これまでの実績から中期計画どおり人事配置に係る取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報				
第1-2-(1)-イ-(イ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 イ 人材の活用 (イ) 組織の合理化・業務遂行の効率化			
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028	

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾病的発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	(イ) 家畜飼養管理部門と飼料生産管理部門の統合を図る等、組織の合理化を進め、職員の業務遂行の効率化を図る。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 組織の合理化、業務の効率化の推進を図るため策定した第3期中期目標期間中の組織の見直し方針を踏まえ、必要な組織の見直しを行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						これまでの実績から中期計画どおり組織の合理化等に向けた取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。 ＜参考＞ 見直し方針を踏まえ、次の組織見直しを実施した。 ① 平成26年4月 鳥取牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課を設置 ② 平成26年10月 ・奥羽牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課を設置 ・茨城牧場、岡崎牧場、兵庫牧場の業務第一課と業務第二課を統合し、業務課を設置 ・宮崎牧場の種畜第二課と飼料課を統合し業務第二課を設置するとともに、種畜第一課を業務第一課に名称変更 ③ 平成27年4月 ・本所の技術部と企画調整部を統合 ・新冠牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課を設置			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-イ-(ウ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 イ 人材の活用 (ウ) 人材の育成		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾患の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	(ウ) 人材の育成を図るため、技術水準、事務処理能力の向上等のための研修を計画的に進める。 その際、技術専門職員の資質の向上及び業務の高度化を推進するため、家畜受精卵移植等の繁殖業務、各種分析・検査業務等に要する高度な技術・資格の取得や研修を計画的に進める。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 一般職員の技術水準、事務処理能力の向上等を図るため研修・講習を受講させ、免許・資格を取得させた。また、技術専門職員の業務の高度化や専門技術の取得を図るため研修を受講させ、免許・資格を取得させるなど、計画どおり実施した。	B	評価 見込評価 B 理由 <評価に至った理由> - これまでの実績から、一般職員について中期計画に則した人材の育成が見込まれることから「B」評価とした。 参考 <参考> - 一般職員の技術水準、事務処理能力の向上等を図るための研修、資格の取得については、新人職員研修、管理・事務関係研修、技術向上研修、安全衛生・施設管理関係研修及びシステム関係研修を受講させ、安全管理関係資格(甲種防火管理者、第一種衛生管理者など)、作業機械等運転・操作資格(フォークリフト運転技能)、特殊作業技能講習(危険物取扱者、有機溶剤作業主任者など)及び畜産技術関係資格(家畜人工授精師など)を取得させた。 - 平成27年度も計画的に研修・講習を受講させ、免許・資格を取得させることとしている。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 ウ 土地・建物等の有効活用		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾患の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	ウ 土地・建物等の有効活用 土地・建物等の保有資産を最大限活用するため、毎年度、土地・建物等の保有資産の利用度等について調査し、保有資産が有効に活用されるよう必要な措置を講じる。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 保有資産の有効活用を図るため、写真による「固定資産の見える化」を通じた利用状況等の現況調査に取り組むこととした。各牧場から減損兆候判定による報告を求めるなどにより、資産の利用状況の確認を実施し、不要なものは除却処分するなど必要な措置を講じ、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画どおり土地・建物等の有効活用が図るための取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。 ＜参考＞ ・建物、構築物、固定資産物品について、写真による「固定資産の見える化」に取り組み、利用状況等の現状を調査し、不要なものは除却処分するなどして保有資産を有効に活用した。 ・平成26年度において、建物8件、構築物130件、設備39件、物品55件を不要と判断し、処分を行った。 ・保有する資産については、監事による各牧場の定期監査の際、固定資産一覧表等に基づき適切に監査を実施した。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-エ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 エ 業務の進行管理		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾病の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	エ 業務の進行管理 中期計画及び年度計画に沿った業務を確実に実施するため、四半期毎に進捗状況を確認し、必要な措置を講じる等業務の進行管理を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 毎年度、中期目標、中期計画の達成に向けて、毎年度、年度計画に対する業務の進捗状況を四半期ごとに点検・分析するなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						これまでの実績から中期計画どおり取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-オ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 オ 業務の重複の防止		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾病的発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	オ 業務の重複の防止 業務の効率化・重点化を図るため、都道府県・民間との役割分担の明確化を図る。	指標＝「微項目の項目数×2」(満点)に対する「各微項目の点数の合計値」(合計点)の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点 ＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点 ＜満点×8/10 D：合計点、＜満点×5/10	＜主要な業務実績＞ □業務の重複の防止 △家畜改良増殖業務の重点化 2／2点(B) △飼料作物種苗増殖業務の重点化 2／2点(B) △調査研究業務の重点化 2／2点(B) 合計 6／6点	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8／10≦合計点<満点×12／10)であったため。 満点：6点(微項目3×2点) 合計点：6点＝2点×3 6点／6点＝1.0(10／10) △家畜改良増殖業務の重点化 2点(B) △飼料作物種苗増殖業務の重点化 2点(B) △調査研究業務の重点化 2点(B) 合 計 点 6点			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(1)-オ-(ア)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (1) 業務運営の効率化 オ 業務の重複の防止 (ア) 家畜改良増殖業務の重点化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(1) 業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾病の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	(ア) センターが担う家畜改良増殖業務については、都道府県・民間との役割分担を明確にしつつ、これら関係者との連携を強化する。 都道府県・民間では取り組み難い新たな育種改良技術とセンターが保有する多様な育種資源の活用により、家畜改良の素材となる種畜の生産・供給に重点化する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ センターが担う家畜改良増殖業務について、農林水産省、都道府県、関係団体及び学識経験者の参画を得て全国的な家畜の改良推進に関する会議を開催するなどにより、都道府県・民間との役割分担を明確にしつつ、これら関係者との連携を強化した。また、都道府県・民間では取り組み難い新たな育種改良技術とセンターが保有する多様な育種資源を活用し家畜改良の素材となる種畜を生産するとともに、これらを都道府県や民間に供給することに重点化し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画どおり家畜改良増殖の重点化が図られると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報				
第1・2・（1）・オ・（イ）	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （1）業務運営の効率化 オ 業務の重複の防止 （イ）飼料作物種苗増殖業務の重点化			
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028	

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	（1）業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾病の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	（イ）飼料作物種苗の増殖業務については、品種改良を行う新品種育成機関、二次増殖及び種子の販売を行う民間種苗会社等と連携協力するとともに、役割分担を明確にする。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 飼料作物種苗の増殖業務について、品種改良を行う新品種育成機関、二次増殖及び種子の販売を行う民間種苗会社等と連携協力の下、役割分担を明確にし、効率的な生産を行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						これまでの実績から、飼料作物種苗の増殖について中期計画どおり、役割分担を明確にした効率的な業務が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1・2・（1）・オ・（ウ）	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （1）業務運営の効率化 オ 業務の重複の防止 （ウ）調査研究業務の重点化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	（1）業務運営の効率化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、引き続き保有する家畜などの遺伝資源及び人材、土地・建物などの資産を最大限活用するとともに、事務の進捗状況に応じた適切な対処が行えるよう進行管理を行い、業務運営の効率化を推進する。その際、家畜伝染性疾患の発生などの業務上のリスク管理に配慮する。 さらに、業務の重複を避けるため、試験研究機関や都道府県等関係者との情報交換や調整などを通じ、役割分担の明確化に努める。	（ウ）調査研究業務については、より研究要素の強い業務（資源循環型の窒素成分強化たい肥を用いた飼料作物栽培に関する調査、食味に関する新たな理化学分析項目の開発及び体細胞クローン牛の調査）は他の試験研究機関等に委ねる等役割分担を明確にし、課題の重複を排除する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 中期計画に基づいて設定した課題について、調査研究を計画どおり実施するとともに、外部評価委員の意見を踏まえ調査研究の進め方を決定した。また、より研究要素の強い業務は、他の試験研究機関等に委ねる等役割分担を明確にし、課題の重複を排除した。	B	評価 B		評価	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(2)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (2) 組織体制の合理化・強化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 組織体制の合理化・強化 業務運営の効率化を図るとともに、家畜飼養管理部門と飼料生産管理部門との統合を進めるなど、要員の合理化に努める。その際、業務上の責任についての透明性を確保するとともに、業務の進行管理、コンプライアンスなどについて十分配慮する。 また、技術専門職員が担当する業務については、当該職員の資質の向上を図りつつ、家畜受精卵移植等の繁殖業務、各種分析・検査業務など、高度な技術を要する業務にシフトする。また、家畜の飼養管理、飼料生産技術のうち単純作業については、引き続き退職者の状況を踏まえつつ、段階的に外部化を進める。	(2) 組織体制の合理化・強化 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」 (満点)に対する「各細項目の点数の合計値」(合計点)の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ◇組織体制の合理化・強化 □組織体制整備 2／2点 (B) □要員の合理化 2／2点 (B) □技術専門職の人材育成 2／2点 (B) □飼養管理、飼料生産作業の外部化 2／2点 (B) 合 計 8／8点	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8/10≦合計点<満点×12/10)であるため。 満 点：8点(細項目4×2点) 合計点：8点＝2点×4 8点/8点＝1.0 (10/10) □組織体制整備 2点 (B) □要員の合理化 2点 (B) □技術専門職員の人材育成 2点 (B) □飼養管理、飼料生産作業の外部化 2点 (B) 合 計 点 8点			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(2)-ア	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (2) 組織体制の合理化・強化 ア 組織体制整備		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 組織体制の合理化・強化 業務運営の効率化を図るとともに、家畜飼養管理部門と飼料生産管理部門との統合を進めるなど、要員の合理化に努める。その際、業務上の責任についての透明性を確保するとともに、業務の進行管理、コンプライアンスなどについて十分配慮する。 また、技術専門職員が担当する業務については、当該職員の資質の向上を図りつつ、家畜受精卵移植等の繁殖業務、各種分析・検査業務など、高度な技術を要する業務にシフトする。また、家畜の飼養管理、飼料生産技術のうち単純作業については、引き続き退職者の状況を踏まえつつ、段階的に外部化を進める。	ア センター各牧場・支場（以下「各牧場」という。）の家畜飼養管理部門と飼料生産管理部門との統合を進めるとともに、本所の部の組織編成を見直して、業務の質、量に応じた機動的な組織体制を整備する。その際、統合に当たっては、業務上の責任についての透明性を確保するとともに、新たな業務の進行管理、コンプライアンス等について、職員に周知徹底する。 また、ガバナンスの強化・充実を図るため、業務監査室の機能を強化し、コンプライアンス推進室として改組する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成績が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 組織の合理化、業務の効率化の推進を図るため策定した第3期中期目標期間中の組織の見直し方針を踏まえ、必要な組織の見直しを行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり組織の見直しが実施される見込まれることから「B」評価とした。 ＜参考＞ ① 平成26年4月 鳥取牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課を設置 ② 平成26年10月 ・奥羽牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課を設置 ・茨城牧場、岡崎牧場、兵庫牧場の業務第一課と業務第二課を統合し、業務課を設置 ・宮崎牧場の種畜第二課と飼料課を統合し業務第二課を設置するとともに、種畜第一課を業務第一課に名称変更		＜	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(2)-イ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (2) 組織体制の合理化・強化 イ 要員の合理化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 組織体制の合理化・強化 業務運営の効率化を図るとともに、家畜飼養管理部門と飼料生産管理部門との統合を進めるなど、要員の合理化に努める。その際、業務上の責任についての透明性を確保するとともに、業務の進行管理、コンプライアンスなどについて十分配慮する。 また、技術専門職員が担当する業務については、当該職員の資質の向上を図りつつ、家畜受精卵移植等の繁殖業務、各種分析・検査業務など、高度な技術を要する業務にシフトする。また、家畜の飼養管理、飼料生産技術のうち単純作業については、引き続き退職者の状況を踏まえつつ、段階的に外部化を進める。	イ 業務の見直しに応じた柔軟な人員配置や効率的な業務運営により、継続的に要員の合理化を実施する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 業務の重点化及び効率化に対応し、職員の適正配置を進めたほか、要員の合理化や計画的な人員削減を行うなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> これまでの実績から中期計画どおり要員の合理化が実施されると見込まれることから「B」評価とした。 <参考> ・技術専門職員について、要員の合理化を推進することにより、34名削減した。 ・一般職員について、要員の合理化を推進することにより、2名削減した。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(2)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (2) 組織体制の合理化・強化 ウ 技術専門職の人材育成		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 組織体制の合理化・強化 業務運営の効率化を図るとともに、家畜飼養管理部門と飼料生産管理部門との統合を進めるなど、要員の合理化に努める。その際、業務上の責任についての透明性を確保するとともに、業務の進行管理、コンプライアンスなどについて十分配慮する。 また、技術専門職員が担当する業務については、当該職員の資質の向上を図りつつ、家畜受精卵移植等の繁殖業務、各種分析・検査業務など、高度な技術を要する業務にシフトする。また、家畜の飼養管理、飼料生産技術のうち単純作業については、引き続き退職者の状況を踏まえつつ、段階的に外部化を進める。	ウ 技術専門職員が担当する業務については、引き続き家畜受精卵移植等の繁殖業務、各種分析・検査業務等に要する高度な技術・資格の取得や研修を計画的に進め、高度な技術を要する業務へのシフトを図り、資質の向上及び業務の高度化を推進する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 技術専門職員の業務の高度化や専門技術の取得を図るため研修を受講させ、免許・資格を取得させるなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> これまでの実績から、技術専門職員について中期計画に則した人材の育成が見込まれることから「B」評価とした。 <参考> - 技術専門職員の業務の高度化や専門技術の取得を図るための研修、資格の取得については、新人職員研修、管理・事務関係研修、技術向上研修及び安全衛生・施設管理関係研修を受講させ、安全管理関係資格（特別管理産業廃棄物管理責任者、安全管理者など）、作業機械等運転・操作資格（車両系建設機械運転技能、高所作業車運転技能など）、機械整備士資格（自動車整備士、建設機械特定自主検査など）、特殊作業技能（危険物取扱者、ガス溶接技能など）及び畜産技術関係資格（家畜人工授精師、認定牛削蹄師）を取得させた。また、平成25年度から高度で専門的な技術者の育成のためのテクニカルエキスパート試験を導入し、資質の向上に努めている。 - 平成27年度も計画的に研修・講習を受講させ、免許・資格を取得させることとしている。これまでの実績から、中期計画どおり取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(2)-エ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (2) 組織体制の合理化・強化 エ 飼養管理、飼料生産作業の外部化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値)	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 組織体制の合理化・強化 業務運営の効率化を図るとともに、家畜飼養管理部門と飼料生産管理部門との統合を進めるなど、要員の合理化に努める。 その際、業務上の責任についての透明性を確保するとともに、業務の進行管理、コンプライアンスなどについて十分配慮する。 また、技術専門職員が担当する業務については、当該職員の資質の向上を図りつつ、家畜受精卵移植等の繁殖業務、各種分析・検査業務など、高度な技術を要する業務にシフトする。また、家畜の飼養管理、飼料生産技術のうち単純作業については、引き続き退職者の状況を踏まえつつ、段階的に外部化を進める。	エ 家畜の飼養管理、飼料生産等の作業内容を検証し、費用対効果や退職者の状況を踏まえつつ、引き続き段階的に外部化を進める。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 家畜飼養管理、飼料生産業務等の作業内容を精査し、費用対効果や定年退職者の状況を踏まえつつ、外注による外部化を推進するなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> これまでの実績から中期計画どおり外部化が推進されると見込まれることから「B」評価とした。		<参考> 外注による外部化については、費用対効果や定年退職者の状況を踏まえて、これまで新冠牧場、十勝牧場及び鳥取牧場におけるトウモロコシの播種など一部の飼料生産業務、十勝牧場における飼料の調製・運搬業務、肥料散布業務、奥羽牧場におけるほ場管理業務、宮崎牧場における放牧地の維持管理業務新冠牧場における起土・砕土、石灰散布業務を、十勝牧場における飼料梱包業務、ジーンバンク牧草株管理業務、岩手牧場における浄化施設処理水等管理業務など、10牧場において、外部化を実施した。 契約件数は平成23年度の10件から平成26年度は33件と増加した。これまでの実績から中期計画どおり組織の見直しが実施されると見込まれることから「B」評価とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(3) ガバナンスの強化 ＜以下略＞	(3) ガバナンスの強化・充実 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ◇ガバナンスの強化・充実 □内部統制の強化 2／2点 (B) □コンプライアンスの徹底 2／2点 (B) □監査の強化 2／2点 (B) □情報開示体制の確立 2／2点 (B) □人事配置の適正化 2／2点 (B) □事業の内部審査及び評価 2／2点 (B) 合計 12／12点	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である各細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／10≦合計点<満点×12／10）であるため。 満 点：12点（細項目6×2点） 合計点：12点＝2点×6 12点／12点＝1.0（10／10） □内部統制の強化 2点（B） □コンプライアンスの徹底 2点（B） □監査の強化 2点（B） □情報開示体制の確立 2点（B） □人事配置の適正化 2点（B） □事業の内部審査及び評価 2点（B） 合 計 点 12点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-ア	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 ＜以下略＞	ア 内部統制の強化 以下の取組を実施するに当たっては、総務省の独立行政法人における内部統制と評価に関する研究会が平成22年3月に公表した報告書（「独立行政法人における内部統制と評価について」）及び同省政策評価・独立行政法人評価委員会から独立行政法人の業務実績に関する評価の結果等の意見等独立行政法人評価委員会への通知事項を参考にし、取り組む。また、コンプライアンス委員会を第三者委員会とするとともに、業務監査室の機能を強化し、コンプライアンス推進室として改組し、センター内のガバナンスの強化・充実、コンプライアンスの徹底を図る。	指標＝「微項目の項目数×2」（満点）に対する「各微項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ □内部統制の強化 △効果的な統制環境の整備 2／2点(B) △リスクの評価と迅速な対応 2／2点(B) △相互けん制機能が確保された統制活動 2／2点(B) △情報と伝達 2／2点(B) △モニタリングによる監視・評価・是正 2／2点(B) 合計 10／10点	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8／10≦合計点<満点×12／10)であるため。 満 点：10点(微項目5×2点) 合計点：10点＝2点×5 10点／10点＝1.0(10／10) △効果的な統制環境の整備 2点(B) △リスクの評価と迅速な対応 2点(B) △相互けん制機能が確保された統制活動 2点(B) △情報と伝達 2点(B) △モニタリングによる監視・評価・是正 2点(B) 合 計 点 10点	評価	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-ア-(ア)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (ア) 効果的な統制環境の整備		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 <以下略>	(ア) 効果的な統制環境の整備 効果的な内部統制の整備のため、業務目標及び役職員等行動規等を全職員へ周知し、全役職員の内部統制に対する意識向上を図る。 また、業務目標及び役職員等行動規範の周知徹底を図るため、職場単位での勉強会や説明会を実施するとともに必要に応じて意識調査を実施する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 業務目標、役職員等行動規範等については各職場において勉強会等を開催し職員に周知した。また、コンプライアンス等に係る職員の意識調査を行うなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-ア-(イ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (イ) リスク評価と迅速な対応		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 ＜以下略＞	(イ) リスクの評価と迅速な対応 センターの業務において潜在するリスクを把握・分析・評価し、リスク対応に関する計画を策定し、問題発生時に迅速な対応を行うための体制の構築を図る。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 平成24年3月にコンプライアンス・業務監視委員会において、業務の遂行を阻害するリスクについて把握・分析・評価し、リスク管理対応計画を策定し、毎年9月及び3月に開催する同委員会において新たなリスクの追加、また見直しを行うなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-ア-(ウ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (ウ) 相互けん制機能が確保された統制活動		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。	(ウ) 相互けん制機能が確保された 統制活動 理事長の命令・指示が適切に実行されるよう、指揮・命令系統を有効に機能させるための方針等を策定し、その適時の見直しを行うとともに、適切な業務遂行のためチェック体制の構築を図り、相互けん制機能を強化する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 平成23年9月に指揮・命令系統を有効に機能させるための方針を策定し、年度当初職員に周知するとともに、監事監査等によりその運営状況について確認を行った。経理事務の相互けん制機能について、チェックリストによる点検を行うなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-ア-(エ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (エ) 情報と伝達		
当該項目の重要度、難易度	(必要に応じて重要度及び難易度について記載)	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。	(エ) 情報と伝達 組織内において的確な情報の伝達が行われるよう、各業務における情報管理担当者 を明確にするとともに、イントラネット等を活用し迅速に情報を伝達する体制を整備する。また、業務運営上の重大な事故や不祥事が発生した場合、個人情報保護に配慮しつつ、その事例を職員に周知することにより再発防止に努める。	S：計画を大きく上回りかつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 組織内での確な情報伝達が行われるよう、各業務における情報管理担当者を人事異動時期には更新し、職員に周知した。必要な情報は、イントラネットに掲載し、迅速に伝達した。また、事故等の情報については、個人情報保護に配慮しつつ周知し、再発防止に努めるなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		<

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-ア-(オ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (オ) モニタリングによる監視・評価・是正		
当該項目の重要度、難易度	(必要に応じて重要度及び難易度について記載)	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 ＜以下略＞	(オ) モニタリングによる監視・評価・是正 適正な業務運営を図るため、内部統制が有効に機能しているかについて、コンプライアンス推進室の監視及びコンプライアンス委員会の評価を通じた是正を行うだけでなく、内部監査等を通じた監視・評価を行い、是正・改善すべき点がある場合は、理事長及び監事等に報告を行い、必要な措置を講ずる。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 内部監査及び監事監査等の結果報告に基づき、コンプライアンス・業務監視委員会において内部統制の状況について検証し、理事長・監事に報告するなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-イ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 イ コンプライアンスの徹底		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価															
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価									
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)							
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 ＜中略＞ コンプライアンス徹底のための取組として、コンプライアンス委員会においてセンター全体のコンプライアンスに関する方針や計画を総合的に検討し、必要な提言を行う。また、コンプライアンス委員会は、役職員へのコンプライアンス意識の浸透を図るとともに、全職員を対象としたコンプライアンス相談窓口などから入手したリスク情報を一元管理し、適切な対応を行う。さらに、「独立行政法人家畜改良センター役職員等行動規範」の周知徹底を図るため、定期的に全役職員を対象とし、牧場や業務課単位での勉強会の開催や意識調査などの点検を行うとともに、このような取組を必要に応じ追加的に実施する。 ＜以下略＞	イ コンプライアンスの徹底 コンプライアンスの徹底を図るため、コンプライアンス委員会での検討を踏まえ、コンプライアンス推進計画を策定し、必要に応じて役職員等行動規範の見直しを行う。また、コンプライアンス推進計画及び役職員等行動規範の周知徹底を図るため、各牧場や職場単位での勉強会を実施するとともに必要に応じて意識調査を実施するほか、必要な取組を追加的に実施する。 なお、コンプライアンス委員会において、職員等からのコンプライアンスに関するリスク情報を一元管理し、適切な対応を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成績が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ コンプライアンス推進計画をコンプライアンス・業務監視委員会で検討、策定し、職員に周知した。リスク管理等について各職場において勉強会等を開催した。また、コンプライアンス等について職場の意識調査を行うなど、計画どおり実施した。	B	<table><tr><td>評価</td><td>B</td></tr><tr><td colspan="2">＜評価に至った理由＞</td></tr><tr><td colspan="2">これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。</td></tr></table>	評価	B	＜評価に至った理由＞		これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		<table><tr><td>評価</td><td></td></tr></table>	評価	
評価	B														
＜評価に至った理由＞															
これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。															
評価															

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 ウ 監査の強化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 <中略> さらに、事業の内部審査や評価について、センター内部限りで自己完結させず、第三者委員会を設置するなどにより、対外的な透明性も確保しつつ、事業の実効性が上がるよう所要の見直しを行う。	ウ 監査の強化 監査の実施に当たっては、会計監査人監査、監事監査及び内部監査を担当する部門が連携し、監査情報を共有するとともに、監査結果等に基づく是正措置の実施状況を相互に評価する。また、これらの取組を通じ、資産・施設の有効活用を促進するとともに、コスト削減を念頭に、無駄をなくす努力をさらに徹底する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 監事監査及び会計監査人監査の監査情報の共有並びに監査結果及び是正措置状況の相互評価を実施し、資産等の活用状況等に留意して監査を行うなど、計画どおり実施した。	B	評価 B	<評価に至った理由> これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。	評価	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1・2・（3）・エ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （3）ガバナンスの強化・充実 エ 情報開示体制の確立		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	（3） ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。	エ 情報開示体制の確立 法令等により公開を義務付けられているもののほか、内部監査情報や各種委員会等の審議結果等必要な情報については開示し、業務の透明性を確保する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 法令等により公開義務のあるもののほか、各種委員会の審査結果等については、センターホームページに掲載し開示するなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-オ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 オ 人事配置の適正化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 ＜以下略＞	オ 人事配置の適正化 職員の適材適所を推進するため、職員の人事配置に当たっては、過去の職歴、業績等の情報を考慮し、業務遂行のための適性や能力を反映した人事配置にするとともに、特に課長級以上の人事配置に当たっては、適正配置のための多角的な検証が必要であることから、コンプライアンス推進室が人事情報を分析し、ガバナンスの観点からの適性について理事長に報告する等により、職責を十分に果たせる人事配置となるよう、人事管理者及び人事企画担当者が業務適性等について多方面から評価・検討し、実施する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 職員の適材適所を推進するため、人事配置に当たっては、職歴、業績等を考慮し、業務遂行のための適性や能力を反映した人事配置を行うとともに、人事異動を行う場合の多方面からの人事企画を精査する機会として人事構想会議や人事企画会議を開催して人事情報を把握し、適性や能力を的確に反映した人事配置を行い、計画どおり実施した。 また、人事配置を検討するに当たり、課長補佐級以上の人事については、得られた人事情報をコンプライアンス推進室がガバナンスの観点から分析したうえで、理事長に意見を具申するなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(3)-カ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3) ガバナンスの強化・充実 カ 事業の内部審査及び評価		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価															
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価									
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)							
	(3) ガバナンスの強化 センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するため、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確実な実施のための点検を行う。 特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などによる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の整備を行う。 ＜中略＞ さらに、事業の内部審査や評価について、センター内部限りで自己完結させず、第三者委員会を設置するなどにより、対外的な透明性も確保しつつ、事業の実効性が上がるよう所要の見直しを行う。	カ 事業の内部審査及び評価 事業の審査や評価を行い、事業運営に反映するために第三者を含めた業務検討会を本所各部及び各牧場を対象に最低年1回開催する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求めると認められる	＜主要な業務実績＞ 業務の評価や事業運営への反映を行うため、毎年度、第三者を含めた内部業務検討会を本所及び各牧場・支場において各1回開催し、共通テーマの検討及び固有テーマの議論を行った。	B	<table><tr><th>評価</th><th>B</th></tr><tr><td colspan="2">＜評価に至った理由＞</td></tr><tr><td colspan="2">これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。</td></tr></table>	評価	B	＜評価に至った理由＞		これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		<table><tr><th>評価</th><td></td></tr></table>	評価	
評価	B														
＜評価に至った理由＞															
これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。															
評価															

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1・2・（4）	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （4）リスク管理の強化		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	（4） リスク管理の強化 口蹄疫や鳥インフルエンザなどの国内での発生も踏まえ、これらの家畜伝染性疾病的の侵入などによりセンターによる家畜改良の成果が損なわれることのないよう、リスク管理体制の強化を図る。 また、種畜の管理や育種資源の保存について、都道府県からその計画的な実施について協力依頼があり、全国的な視点からの家畜改良に資する場合には、積極的に協力する。	（4）リスク管理の強化 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A:満点×12/10≦合計点 B:満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C:満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D:合計点<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ◇リスク管理の強化 □防疫対策の徹底 2／2点（B） □保有遺伝資源のリスク分散 2／2点（B） □種畜等の受託管理 2／2点（B） 合計 6／6点	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である細項目の合計点が、B評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点<満点×/10）であるため。 満 点：6点(細項目3×2点) 合計点：2点×2＋1点＝5点 5点／6点＝0.83＝8.3／10 □防疫対策の徹底 1点（C） □保有遺伝資源のリスク分散 2点（B） □種畜等の受託管理 2点（B） 合 計 点 5点	評価 	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1・2・（4）・イ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （4）リスク管理の強化 イ 保有遺伝資源のリスク分散		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	（4） リスク管理の強化 口蹄疫や鳥インフルエンザなどの国内での発生も踏まえ、これらの家畜伝染性疾病の侵入などによりセンターによる家畜改良の成果が損なわれることのないよう、リスク管理体制の強化を図る。 また、種畜の管理や育種資源の保存について、都道府県からその計画的な実施について協力依頼があり、全国的な視点からの家畜改良に資する場合には、積極的に協力する。	イ 家畜伝染性疾病の侵入等により貴重な遺伝資源を失うことがないよう、必要に応じて複数の牧場を活用し、リスク分散を図る。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 家畜伝染性疾病の侵入等により貴重な遺伝資源を失うことがないよう、各畜種ごとにリスク分散を図るため、計画的に生体等を複数の牧場を活用して分散させて管理し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画どおり、保有遺伝資源のリスク分散が実施されると見込まれることから「B」評価とした。 ＜参考＞ ・乳用牛について、2牧場において、凍結受精卵、凍結精液及び改良用雌牛群を分散管理した。 ・肉用牛について、3牧場において、多様性の確保に必要な系統に属する凍結受精卵、凍結精液及び改良用雌牛群を分散管理した。 ・豚について、2牧場において、センターが作出した系統豚を分散管理した。 ・鶏について、2牧場において、在来鶏等を分散管理した。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(4)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (4) リスク管理の強化 ウ 種畜等の受託管理		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(4) リスク管理の強化 口蹄疫や鳥インフルエンザなどの国内での発生も踏まえ、これらの家畜伝染性疾患の侵入などによりセンターによる家畜改良の成果が損なわれることのないよう、リスク管理体制の強化を図る。 また、種畜の管理や育種資源の保存について、都道府県からその計画的な実施について協力依頼があり、全国的な視点からの家畜改良に資する場合には、積極的に協力する。	ウ 都道府県等から、種畜の管理や育種資源の保存について、その計画的な実施について協力依頼があり、当該計画が全国的な視点からの家畜改良に資する場合には、積極的に協力する。また、このために必要な条件等を平成23年度中に整理する。	S:計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A:計画を上回る成果が得られた B:計画どおり順調に実施された C:計画どおり実施されず、改善を要する D:計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 平成23年度に、都道府県等から種畜の管理や育種資源の保存に関する依頼を受けた際の協力に必要な条件として、受け入れる種畜の条件や受入場所を整理し、受入体制を整えた。 なお、今中期目標期間中は、都道府県等からの種畜の管理や育種資源の保存についての協力依頼はなかったが、依頼があった場合には、平成23年度に整理した条件等に基づき、積極的に協力することとしている。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 都道府県等からの種畜の管理や育種資源の保存についての協力依頼はなかったが、依頼があった場合には、中期計画どおり受託管理を行うことができる見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1・2・（5）・ア	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 （5）情報セキュリティ対策の強化 ア 情報システムの適正管理、情報セキュリティの確保		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(5) 情報セキュリティ対策の強化 情報業務の信頼性確保及び個人情報保護のため、情報システムの適正な管理及び情報セキュリティの確保を図る。	ア 情報セキュリティ対策の強化に当たっては、「第2次情報セキュリティ基本計画」等の政府の方針を参考として、情報システムの適正な管理及び情報セキュリティの確保を図るため、情報システムの実施手順書を作成する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 情報システムの適正な管理及び情報セキュリティの確保を図るため、センターが保有する各情報システムについて、実施手順書を作成し、職員へ周知するとともに、実施手順書に沿った管理・運用を行っているか点検を行うなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(5)-イ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (5) 情報セキュリティ対策の強化 イ 規則の周知及び対策の教育		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(5) 情報セキュリティ対策の強化 情報業務の信頼性確保及び個人情報保護のため、情報システムの適正な管理及び情報セキュリティの確保を図る。	イ また、情報セキュリティ規則類を職員に周知するとともに、セキュリティ対策の教育を実施する。	S:計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A:計画を上回る成果が得られた B:計画どおり順調に実施された C:計画どおり実施されず、改善を要する D:計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 情報セキュリティ対策の強化を図るため、自己点検を実施したほか、新規採用職員研修、内部監査、職場説明会等において情報セキュリティに関する規則の周知・教育を実施した。また、外部講師による講習会の実施、担当職員を外部の研修会へ参加させるなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-2-(5)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (5) 情報セキュリティ対策の強化 ウ 事故・不祥事の再発防止		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(5) 情報セキュリティ対策の強化 情報業務の信頼性確保及び個人情報保護のため、情報システムの適正な管理及び情報セキュリティの確保を図る。	ウ 業務運営上の重大な事故や不祥事が発生した場合、個人情報保護に配慮しつつ、その事例を職員に周知することにより再発防止に努める。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 事故等の情報については、個人情報保護に配慮しつつ職員に周知し、再発防止に努めるなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> これまでの実績から、中期計画に示されたとおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	3 経費の削減及び自己収入の改善 ＜以下略＞	第1－3 経費の削減及び自己収入の改善 ＜以下略＞	指標＝「小項目の項目数×2」（満点）に対する「各小項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各小項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点 ＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点 ＜満点×8/10 D：合計点＜満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ○経費の削減及び自己収入の拡大 ◇一般管理費・人件費等の削減・見直し 2／2点(B) ◇契約の点検・見直し 2／2点(B) ◇自己収入の拡大 2／2点(B) ◇知的財産の管理 2／2点(B) 合 計 8／8点	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である小項目の合計点が B 評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点＜満点×12/10）であるため。 満 点：8点(小項目4×2点) 合計点：8点＝2点×4 8点／8点＝1.0(10／10) ☐一般管理費・人件費等の削減・見直し 2点（B） ☐契約の点検・見直し 2点（B） ☐自己収入の拡大 2点（B） ☐知的財産の管理 2点（B） 合 計 点 8点	評価	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(1)	第1 業務運営の効率化	3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	運営費交付金を充当して行う事業については、業務の見直し及び効率化を進め、一般管理費（人件費を除く。）については、毎年度平均で少なくとも対前年度比3%の抑制、業務経費については、毎年度平均で少なくとも対前年度比1%の抑制をすることを目標に、削減する。 給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表するものとする。	ア 一般管理費・業務経費 ＜以下略＞ イ 財務分析 ＜以下略＞ ウ 官民競争入札等の導入 ＜以下略＞ エ 人件費 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	<主要な業務実績> ◇一般管理費・人件費等の削減・見直し □一般管理費・業務経費 2／2点(B) □財務分析 2／2点(B) □官民競争入札等の導入 2／2点(B) □人件費 2／2点(B) 合計 8／8点	B	評価 B	<評価に至った理由> 下記のとおり。下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点<満点×12/10）であるため。 満点：8点(細項目4×2点) 合計点：8点＝2点×4 8点／8点＝1.0(10／10) □一般管理費・業務経費 2点（B） □財務分析 2点（B） □官民競争入札等の導入 2点（B） □人件費 2点（B） 合 計 点 8点	評価

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(1)-ア	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し ア 一般管理費・業務経費		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度※2	平成 27 年度	(参考情報)
	一般管理費（予算額）※1	毎年度対前年費3％抑制		575,252 ▲4.6％	555,762 ▲3.4％	538,550 ▲3.1％	530,498 ▲3.3％		単位：千円、下段は抑制率（対前年度）
	業務経費（予算額）	毎年度対前年費1％抑制		1,523,414 ▲6.8％	1,502,147 ▲1.4％	1,477,735 ▲1.6％	1,475,460 ▲2.0％		単位：千円 下段は抑制率（対前年度）

※1：人件費除く、※2：消費税増額分を除く

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(1) 一般管理費・人件費などの削減・見直し 運営費交付金を充当して行う事業については、業務の見直し及び効率化を進め、一般管理費（人件費を除く。）については、毎年度平均で少なくとも対前年度比3％の抑制、業務経費については、毎年度平均で少なくとも対前年度比1％の抑制をすることを目標に、削減する。 ＜以下略＞	ア 運営費交付金で行う業務のうち一般管理費（人件費を除く。）については、毎年度平均で少なくとも対前年度比3％を抑制、業務経費については、毎年度平均で少なくとも対前年度比1％を抑制する。	指標＝一般管理費（予算額）、業務経費（予算額） S：計画の120％以上であり、かつ、特に優れた成果が認められる。 A：計画の120％以上 B：計画の100％以上、120％未満 C：計画の80％以上、100％未満 D：計画の80％未満、又は業務運営の改善等必要な措置が必要と認められる。る	＜主要な業務実績＞ 毎年度、運営費交付金で行う業務のうち一般管理費（人件費を除く。）については毎年度平均で少なくとも対前年度比3.0％抑制するとともに、運営費交付金で行う業務経費についても毎年度平均で対前年度比1.0％抑制するなど、計画どおり実施した。	B	評価 B	評価 ＜評価に至った理由＞ 中期計画を上回る予算額の抑制を達成しているが、予算折衝の過程で他律的に抑制が図られたため「B」評価とした。	評価	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(1)-イ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し イ 財務分析		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	運営費交付金を充当して行う事業については、業務の見直し及び効率化を進め、一般管理費（人件費を除く。）については、毎年度平均で少なくとも対前年度比3％の抑制、業務経費については、毎年度平均で少なくとも対前年度比1％の抑制をすることを目標に、削減する。 ＜以下略＞	イ 毎年度、財務の分析を行い、その結果を経費の縮減に活用する。特に、一般管理費については、自己評価を厳格に行った上で、適切な見直しを行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成績が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 財務分析を行い業務に係る経費の縮減に活用するとともに、一般管理費の自己評価を行い、業務効率化実施計画に反映させるなど、計画どおり実施した。	B	評価 B		評価 B	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおりの取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。		＜評価に至った理由＞	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(1)-ウ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し ウ 官民競争入札等の導入		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	運営費交付金を充当して行う事業については、業務の見直し及び効率化を進め、一般管理費（人件費を除く。）については、毎年度平均で少なくとも対前年度比3%の抑制、業務経費については、毎年度平均で少なくとも対前年度比1%の抑制をすることを目標に、削減する。 ＜以下略＞	ウ 業務の質の維持向上及び経費の削減の一層の推進を図るため、官民競争入札等の積極的な導入を検討・推進する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成績が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 中央畜産研修施設の管理・運営業務について、業務の質の維持向上及び経費の節減の一層の推進を図るため「独立行政法人整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）及び「公共サービス改革基本方針」（平成23年7月15日閣議決定）に基づき民間競争入札を行うとともに、入札を経て決定された民間事業者に対象業務を委託した。また、その実施状況について所定の方法で調査・確認し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり官民競争入札等の導入に向けた取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報									

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(1)-エ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し エ 人件費		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表するものとする。 ＜以下略＞	エ 給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、引き続き、国家公務員に準拠した給与規定に基づき支給することとし、検証結果や取組状況を公表する。 ＜以下略＞	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 役職員の給与水準については、国家公務員とおおむね同等のものとなるよう計画的に取り組み、毎年度の給与水準について公表を行った。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画に示された取組が継続されるとともに、国家公務員と同等レベルの給与水準が維持されると見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(2)-ア	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (2) 契約の点検・見直し ア 経費の節減		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 契約の点検・見直し 契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進し、業務運営の効率化を図るものとする。 ＜以下略＞	ア 契約については、随意契約限度額にとらわれず、一般競争入札を積極的に取り入れ、一般競争入札等であっても、契約の条件、契約手続き等の見直し改善を図り、年2回経費削減効果の検証を行う。 また、監事及び外部有識者によって構成する契約監視委員会において、競争性のない随意契約の見直しをさらに徹底して行うとともに、一般競争入札等についても真に競争性が確保されているか、点検及び見直しを行い、その結果を公表する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 随意契約限度額未満であっても、一般競争入札を積極的に取り入れた。また、年2回開催する契約監視委員会において、経費削減効果の検証を行うとともに、競争性のない随意契約の見直し、一般競争入札等について真に競争性が確保されているかについて点検及び見直しを行い、その結果をホームページに公表し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの取組から、中期計画に示された経費削減効果の検証や競争性のない随意契約の見直し等が実施されていると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(2)-イ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (2) 契約の点検・見直し イ 調査研究業務		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(2) 契約の点検・見直し 契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月17日閣議決定）に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進し、業務運営の効率化を図るものとする。 この場合において、調査研究業務に係る調達については、他の独立行政法人の事例なども参考に、透明性が高く効果的な契約の在り方を追求するものとする。 <以下略>	イ 調査研究業務に係る調達の透明性を高め、効果的な契約の在り方を追求するため、他の独立行政法人の優良な事例等を参考にし、仕様要件の見直しやリース方式の活用等を図る。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 調査研究業務に係る物品調達にあたっては、他の独立行政法人等の事例等を参考にし、仕様要件の見直しやリース方式の活用を図るなど、効果的な契約を計画どおり実施した。	B	評価 B		評価	
						<評価に至った理由> これまでの取組から、中期計画に示された仕様要件に見直しやリース方式の活用が図られつつあると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(2)-ウ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (2) 契約の点検・見直し ウ 法人契約		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(2) 契約の点検・見直し 契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進し、業務運営の効率化を図るものとする。 この場合において、調査研究業務に係る調達については、他の独立行政法人の事例なども参考に、透明性が高く効果的な契約の在り方を追求するものとする。 また、密接な関係にあると考えられる法人との契約に当たっては、一層の透明性の確保を追求し、情報提供の在り方を検討するものとする。 <以下略>	ウ 密接な関係があると考えられる法人との契約については、当該法人との取引、当該法人への再就職の状況等の状況について情報を公開することにより、透明性の向上を図る。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成績が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 密接な関係があると考えられる法人との契約については該当がなかったため、再就職の状況等の情報について、「該当なし」とホームページに掲載することにより透明性の向上を図り、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> これまでの取組により、法人契約における透明性が向上したと見込まれることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(2)-エ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (2) 契約の点検・見直し エ 増殖用種子の配布		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：：0028

2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度
								(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(2) 契約の点検・見直し 契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進し、業務運営の効率化を図るものとする。 <中略> なお、飼料作物に係る種苗の配布業務については、センターが行う増殖用の種子の配布を特定の団体が受けている状況にあることから、競争性のある手続を経て行うものとする。また、配布先を決める際には、配布希望者が、種苗増殖を行い農家への種子の供給を行う計画や能力を有するかなどを十分に精査した上で、行うものとする。	エ 飼料作物に係る増殖用の種子の配布については、平成23年度中に競争性のある契約を導入する。この場合、配布先を決めるに当たっては、配布希望者が種苗増殖を行い、農家への種子の供給を行う計画や能力を有するか等を判定する基準を作成し、十分に精査した上で行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 増殖用種子の配布方法について、申請による配布から、一般競争入札を導入し実施した。その際、配布先選定の判定基準を作成し、外部委員の審査により十分精査して行うなど、計画どおり実施した。	B	評価 B	<評価に至った理由> 中期計画どおり平成23年度中に競争性のある契約を導入されたことからB評価とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(3)-ア	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (3) 自己収入の拡大 ア 自己収入の拡大		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ (単位：百万円)									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	(参考情報)
	諸収入			1,259	1,182	1,354	1,496		決算額

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(3) 自己収入の拡大 家畜の改良増殖に係る家畜人工授精用精液、家畜受精卵、種鶏及び飼料作物種子の譲渡又は配布価格について、生産コストを考慮し、畜産経営などに及ぼす影響を踏まえ、民間市場価格などと比較した価格の検討・設定を行うとともに、家畜の貸付け及び飼料作物の原種子配布への競争入札の導入など、配布方法の見直しや透明性の向上を不断に行うことにより、自己収入の拡大を図る。また、内部監査などの強化を通じ、資産・施設の有効活用を促進するとともに、コスト縮減を念頭に、無駄をなくす努力を更に徹底する。 なお、精液採取用種雄牛の貸付けの入札については、周知活動を強化するなどにより、応札者の参入の拡大を図り、競争性を更に高めるものとする。	ア 自己収入の拡大を図るため、家畜の改良増殖に係る家畜人工授精用精液、家畜受精卵、種鶏等の配布及び飼料作物の種子配布価格について、生産コストを考慮し、畜産経営等に及ぼす影響を踏まえ、民間市場価格等と比較を行う等により適切な価格の設定をする。 また、家畜の貸付け及び飼料作物の原種子配布について、競争入札や公募等の競争性のある契約の導入等の配布方法の見直しを行う。 精液採取用種雄牛の貸付けの入札について、競争性及び透明性を高めるため、ホームページ、畜産関係専門誌等による周知活動を強化する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 種鶏等及び飼料作物原種子等の配布価格については、生産コストを考慮し、民間市場価格等を参考に適正な価格を設定した。種子配布については、一般競争の方法で契約を行った。また、精液採取用種雄牛の貸付については、各種畜産関係会議、イベント等において周知活動を行うなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から、自己収入の拡大に向けた取組が中期計画どおり実施されると見込まれることから、「B」評価とした。 ＜参考＞ ・家畜の改良増殖に係る家畜人工授精用精液、家畜受精卵、種鶏等の配布及び飼料作物の種子配布価格について、適切な価格を検討し、種鶏等の配布価格については、民間取引価格等を調査し参考としつつ適正な価格を設定し、めん羊の配布価格については、市場平均単価及び輸入羊肉価格推移から生体単価を求め、適正な価格を設定し、飼料作物原種子等の配布価格については、生産原価と民間市場価格を比較検討し、適正な価格を設定した。 ・増殖用種子の配布方法について、申請による配布方法から一般競争に見直しをすることとし、外部委員による審査も行い十分に精査をした上で、一般競争入札を行った。 ・精液採取用種雄牛の貸付については、各種畜産関係会議の場での周知、畜産専門誌掲載による周知「畜産フードフェア」等においてポスター掲示、パンフレットの配布等の周知活動を行った。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(3)-イ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (3) 自己収入の拡大 イ 監査の実施		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(3) 自己収入の拡大 家畜の改良増殖に係る家畜人工授精用精液、家畜受精卵、種鶏及び飼料作物種子の譲渡又は配布価格について、生産コストを考慮し、畜産経営などに及ぼす影響を踏まえ、民間市場価格などと比較した価格の検討・設定を行うとともに、家畜の貸付け及び飼料作物の原種子配布への競争入札の導入など、配布方法の見直しや透明性の向上を不断に行うことにより、自己収入の拡大を図る。また、内部監査などの強化を通じ、資産・施設の有効活用を促進するとともに、コスト縮減を念頭に、無駄をなくす努力を更に徹底する。 なお、精液採取用種雄牛の貸付けの入札については、周知活動を強化するなどにより、応札者の参入の拡大を図り、競争性を更に高めるものとする。	イ 監査の実施に当たっては、会計監査人監査、監事監査及び内部監査を担当する部門が連携し、監査情報を共有するとともに、監査結果等に基づく是正措置の実施状況を相互に評価する。また、これら取組を通じ、資産・施設の有効活用を促進するとともに、コスト縮減を念頭に、無駄をなくす努力をさらに徹底する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 監事監査及び会計監査人監査の監査情報の共有並びに監査結果及び是正措置状況の相互評価を実施し、資産等の活用状況等に留意して監査を行うなど、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> これまでの実績から、中期計画に示された監査が実施されると見込まれることから「B」評価とした			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第1-3-(4)	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (4) 知的財産の管理		
当該項目の重要度、難易度		関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(4) 知的財産の管理 センターが保有する特許権については、特許権を保有する目的を明確にした上で、当該目的を踏まえつつ、登録・保有コストの削減及び特許収入の拡大を図る。	(4) 知的財産の管理 特許等の知的財産について、その取得状況、活用状況等を発明審査委員会において毎年2回点検し、有効活用する。そのため、特許権については、保有する目的を明確にしたうえで、登録及び保有コストの削減を図るとともに、特許収入の拡大を図る。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 特許等の知的財産について、その取得状況、活用状況等を発明審査委員会において、毎年2回点検し、有効活用した。また、特許権については、知的財産に係る基本方針を策定し、所定の規程の改正を行うなどにより、保有する目的等を明確にしたうえで、登録及び保有コストの削減を図るとともに、特許収入の拡大に努めた。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ これまでの実績から中期計画どおり、知的財産の管理に関する取組が実施されると見込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2	第2 業務の質の向上		
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画 家畜改良増殖目標・鶏の改良増殖目標 酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条、家畜改良増殖法第3条の4，同法35条の2第1項・第3項、種苗法第63条第1項、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律第32条第1項・第3項、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第20条、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法施行令第5条
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	第3 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ＜以下略＞	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ＜以下略＞	指標＝「中項目の項目数×2」（満点）に対する「各中項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各中項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点＜満点×8/10 D：合計点、＜満点×5/10	◎国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○家畜改良及び飼養管理の改善等 2／2点（B） ○飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・供給 2／2点（B） ○飼料作物の種苗の検査 2／2点（B） ○調査研究 2／2点（B） ○講習及び指導 2／2点（B） ○家畜改良増殖法に基づく検査等 2／2点（B） ○牛トレサ法に基づく事務等 2／2点（B） ○センターの人材・資源を活用した外部支援 2／2点（B） 合 計 16／16点	B	評価	B	評価	
				＜評価に至った理由＞ 下記のとおり,下位の評価項目である中項目の合計点がB評定の判定基準内（満点×8/10≦合計点＜満点×12/10）であるため。 満 点：10点(中項目5×2点) 合計点：9点=2点×4＋1点 16点／10点=0.9(9／10) ○家畜改良及び飼養管理の改善等 2点（B） ○飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・供給 2点（B） ○飼料作物の種苗の検査 2点（B） ○調査研究 2点（B） ○家畜改良増殖法等に基づく検査等 2点（B） ○牛トレサ法に基づく事務等 2点（B） ○センターの人材・資源を活用した外部支援 2点（B） 合 計 点 16点					
4. その他参考情報									

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善		
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
	1 家畜改良及び飼養管理の改善など ＜以下略＞	第2-1 家畜改良及び飼養管理の改善等 ＜以下略＞	指標＝「小項目の項目数×2」（満点）に対する「各小項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各小項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	○家畜改良及び飼養管理の改善等 ◇乳用牛 2／2点（B） ◇肉用牛 2／2点（B） ◇豚 2／2点（B） ◇鶏 2／2点（B） ◇馬 2／2点（B） ◇めん羊・山羊 2／2点（B） ◇家畜の飼養管理の改善 2／2点（B） ◇家畜伝染性疾病に対するリスク管理の強化 2／2点（B） ◇家畜の遺伝資源の保存 2／2点（B） 合 計 18／18点	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である小項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／10≦合計点<12／10）であったため。 満 点：18点（小項目9×2点） 合計点：17点＝2点×8＋1点 17点／18点＝0.94（9.4／10） ◇乳用牛 2点（B） ◇肉用牛 2点（B） ◇鶏 2点（B） ◇馬 2点（B） ◇めん羊・山羊 2点（B） ◇家畜伝染性疾病に対するリスク管理の強化 1点（C） ◇家畜の遺伝資源の保存 2点（B） 合 計 点 17点			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛		
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																		
② 要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注									
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度				

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(1) 乳用牛 ＜以下略＞	(1) 乳用牛 ＜以下略＞	◇乳用牛 指標＝「細項目の項目数×2」(満点)に対する「各細項目の点数の合計値」(合計点)の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	◇乳用牛 □全国的な改良の推進 2／2点(B) □遺伝的能力評価の実施 2／2点(B) □候補種雄牛等の生産・供給 2／2点(B) □その他 2／2点(B) 合 計 8／8点	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点<満点×12/10）であるため。 満 点：6点(細項目3×2点) 合計点：2点×3＝6点 6点／6点＝1.0＝10／10 □全国的な改良の推進 2点(B) □遺伝的能力評価の実施 2点(B) □候補種雄牛等の生産・供給 2点(B) □その他 2点(B) 合 計 点 8点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ア 全国的な改良の推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	ア 全国的な改良の推進 ＜以下略＞	ア 全国的な改良の推進 ＜以下略＞	指標＝「微項目の項目数×2」（満点）に対する「各微項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各微項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	□全国的な改良の推進 △全国的な乳用牛の改良推進 2/2点(B) △後代検定の推進 2/2点(B) 合 計 4/4点	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点<12/10）であったため。 満 点：4点（微項目2×2点） 合計点：4点＝2点×2 4点/4点＝1.0（10/10） △全国的な乳用牛の改良推進 2点(B) △後代検定の推進 2点(B) 合 計 点 4点	評価

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ア-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ア 全国的な改良の推進 (ア) 全国的な乳用牛の改良推進		
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	② 要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員数）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	(ア) 全国的な乳用牛の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者との意見・情報交換において、積極的に指導的役割を果たすとともに、都道府県、関係団体などとの役割分担の明確化を図る。	(ア) 全国的な乳用牛の改良推進を図るため、センターが農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者を参集して会議を開催し、我が国における家畜改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、業務に反映する。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、技術的助言、連携協力を行う等指導的な役割を果たす。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 全国的な乳用牛の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、「乳用牛評価技術検討会」等を開催し、我が国における乳用牛の改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、遺伝的能力評価技術の改善に取り組むなど業務に反映した。また、関係団体等が開催する乳用牛の改良に関する各種会議に積極的に参画し、乳用牛改良をめぐる情勢を説明するなどの技術的助言や乳用牛改良事業に係る連携協力を行う等により指導的役割を果たし、計画どおり実施した。	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 中期計画どおり、関係者を参集した全国会議の開催、乳用牛改良に関する各種会議への積極的な参加と技術的助言、連携協力を行うなど乳用牛改良において指導的な役割を果たしているから見込まれることから「B」評価とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ア-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ア 全国的な改良の推進 (イ) 後代検定の推進		
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(イ) 遺伝的能力の高い検定済種雄牛の精液を供給するため、全国同一基準による遺伝的能力評価に基づいた後代検定を推進する。	(イ) 全国同一基準による遺伝的能力評価に基づき、後代検定の実施を推進するための会議を開催し、技術的助言、連携協力を行う等後代検定に関する推進母体としての役割を果たす。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 全国同一基準による遺伝的能力評価に基づき、後代検定の実施を推進するため、「全国乳用牛改良技術検討会」及び「全国乳用牛改良推進会議」を開催し、「高い遺伝的能力が期待できる候補種雄牛を確保するためのガイドライン」を策定することなどにより技術的助言、連携協力を行う等後代検定に関する推進母体としての役割を果たし、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> 中期計画に則して全国同一基準による遺伝的能力評価に基づいた後代検定の推進に取り組んでいることから「B」評価とした。 <参考> ・農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、「全国乳用牛改良推進会議」を開催し、「高い遺伝的能力が期待できる候補種雄牛の確保するためのガイドライン」を策定するとともに、後代検定事業に係る調整交配をはじめとする事業実施計画の作成にあたって技術的指導等を行い、後代検定事業の円滑な推進を図った。 ・後代検定成績の評価精度の向上を図るため、平成27年2月に泌乳形質等に係る遺伝的能力評価方法を「変量回帰検定日モデル」から「産次を考慮した変量回帰検定日モデル」に変更した。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実施		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	イ 遺伝的能力評価の実施 ＜以下略＞	イ 遺伝的能力評価の実施 ＜以下略＞	指標＝「微項目の項目数×2」（満点）に対する「各微項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各微項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点、<満点×5/10	□遺伝的能力評価の実施 △遺伝的能力の評価 ・公表 2／2点（B） △総合指数 2／2点（B） △評価手法の改善 2／2点（B） △ジャージー種の遺伝的能力の評価・公表 2／2点（B） △ブラウンスイス種の遺伝的能力評価 2／2点（B） 合 計 10／10点	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／10≦合計点<12／10）であったため。 満 点：10点（微項目5×2点） 合計点：10点＝2点×5 10点／10点＝1.0（10／10） △遺伝的能力の評価・公表 2点（B） △総合指数 2点（B） △評価手法の改善 2点（B） △ジャージー種の遺伝的能力の評価・公表 2点（B） △ブラウンスイス種の遺伝的能力評価 2点（B） 合 計 点 10点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-イ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (ア) 遺伝的能力の評価・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(ア) ホルスタイン種について、生涯生産性の向上を図る観点から、泌乳持続性の評価形質を組み入れて、総合指数を新たに作成するとともに、遺伝子解析技術（SNP）を活用した解析技術を導入するなど、効率的かつ精度の高い遺伝的能力評価を行い、全国的に改良を進める。	(ア) ホルスタイン種について、種雄牛及び雌牛の遺伝的能力評価を毎年2回以上定期的に実施し公表する。また、種雄牛の国際能力評価機関（インターブル）から得られる年3回の海外の遺伝的能力評価に関する情報を定期的に提供する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる。	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、種雄牛の遺伝的能力評価を毎年2回、雌牛の遺伝的能力評価を毎年4回、定期的に実施し公表したほか、インターブルから得られた海外の遺伝的能力評価に関する情報を毎年3回定期的に提供し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> 我が国における乳用牛の主要品種であるホルスタイン種について、中期計画どおり、種雄牛及び雌牛の遺伝的能力評価を定期的に公表しげいることから「B」評価とした。 <参考> ・種雄牛の遺伝的能力評価を実施し、毎年8月と2月に公表した。 ・雌牛の遺伝的能力評価を実施し、毎年5月、8月、11月及び2月に公表した。 ・インターブルから得られた海外の遺伝的能力評価に関する情報を毎年4月、8月及び12月に提供・公表した。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-イ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (イ) 総合指数		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	(ア) ホルスタイン種について、生涯生産性の向上を図る観点から、泌乳持続性の評価形質を組み入れて、総合指数を新たに作成するとともに、遺伝子解析技術（SNP）を活用した解析技術を導入するなど、効率的かつ精度の高い遺伝的能力評価を行い、全国的に改良を進める。	(イ) ホルスタイン種の総合指数について、学識経験者等改良関係者の意見を聞きながら、泌乳持続性の評価形質を組み入れたものを作成する。また、その他の形質について総合指数への反映を検討する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> ホルスタイン種の総合指数に関する検討会を学識経験者等改良関係者の参画を得て開催し、泌乳持続性及び空胎日数を組み入れ試作した総合指数について検討及び意見交換を行った。その結果を踏まえ、新たに作成した総合指数式による評価を実施し、平成27年8月に当該評価結果の公表を行うとともに、その改善のための分析を行うこととしており、計画どおり実施した。	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 我が国における乳用牛の主要品種であるホルスタイン種の総合指数について中期計画に則した改善に取り組んでいることから「B」評価とした。	評価

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-イ-(ウ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (ウ) 評価手法の改善		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
		（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)									

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(ア) ホルスタイン種について、生涯生産性の向上を図る観点から、泌乳持続性の評価形質を組み入れて、総合指数を新たに作成するとともに、遺伝子解析技術（SNP）を活用した解析技術を導入するなど、効率的かつ精度の高い遺伝的能力評価を行い、全国的に改良を進める。	(ウ) ホルスタイン種について、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、SNP（一塩基多型）情報を活用する等精度の高い遺伝的能力評価手法の開発に取り組む。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、学識経験者等の参画を得て、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、ゲノミック評価を平成25年11月から公表、繁殖性の遺伝的能力評価を平成26年2月から公表、産次を考慮した変量回帰検定モデルを導入した遺伝的能力評価を平成27年2月から公表するなど、精度の高い遺伝的能力評価手法や新たな形質の評価手法の開発に取り組み、計画を大きく上回って実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 我が国における乳用牛の主要品種であるホルスタイン種の遺伝的能力評価について、中期計画に則して評価手法の改善に取り組んでいることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-イ-(エ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (エ) ジャージー種の遺伝的能力の評価・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(イ) ジャージー種について、引き続き遺伝的能力評価を実施し、改良を進める。	(エ) ジャージー種について、牛群検定データの収集可能な雌牛全頭について、毎年2回定期的に遺伝的能力を評価し、公表する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> ジャージー種に係る牛群検定データの収集可能な雌牛全頭について、毎年2回定期的に遺伝的能力を評価し評価結果を公表し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 中期計画どおり、年2回の定期的に遺伝的能力を評価と評価結果の公表を実施したことから「B」評価とした。 <参考> 牛群検定データの収集可能な雌牛全頭について、毎年9月、3月に遺伝的能力の評価を実施し評価結果を公表した。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-イ-(オ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (オ) ブラウンスイス種の遺伝的能力の評価・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(ウ) ブラウンスイス種について、遺伝的能力評価の実施に向けた試行に取り組む。	(オ) ブラウンスイス種について、牛群検定データの収集状況を踏まえ、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年少なくとも1回開催し、平成27年度までに雌牛の遺伝的能力評価に向けた試行を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ ブラウンスイス種について、牛群検定データの収集状況を踏まえ、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、検討結果に基づき評価モデルを作成し平成27年から雌牛の遺伝的能力評価の試行を行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ ブラウンスイス種の遺伝的能力評価に関し、中期計画に則した取組が継続的に実施されていることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
											従事人員数	991	981	972	966	
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）
	ウ 候補種雄牛などの生産・供給	ウ 候補種雄牛等の生産・供給	指標＝「微項目の項目数×2」(満点)に対する「各微項目の点数の合計値」(合計点)の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	<主要な業務実績> □候補種雄牛等の生産・供給 △優良な候補種雄牛等の生産・供給 2/2点(B) △SNP情報の活用 2/2点(B) △泌乳持続性に優れる改良用雌牛の作出 2/2点(B) △泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産 2/2点(B) 合 計 8/8点	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内(満点×8/10≦合計点<12/10)であったため。 満 点：8点(微項目4×2点) 合計点：9点＝2点×3＋3点 9点/8点＝1.13(11.3/10) △優良な候補種雄牛等の生産・供給 2点(B) △SNP情報の活用 2点(B) △泌乳持続性に優れる改良用雌牛の作出 2点(B) △泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産 3点(A) 合 計 点 9点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ウ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給 (ア) 優良な候補種雄牛等の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(ア)「家畜改良増殖目標」の育種価目標を基に、我が国の飼養環境（気候、風土、飼料・飼養形態など）に適した優良な種畜生産に取り組むとともに、泌乳持続性や体型など生涯生産性の向上を図る。	(ア) 家畜改良増殖目標の育種価目標を基に、多様な育種素材の導入を行い、我が国の飼養環境（気候、風土、飼料・飼養形態等）に適した優良な種畜生産に取り組むとともに、民間では取り組み難い未経産採卵技術とドナーの集合検定を組み合わせた高度な繁殖技術等を活用し、泌乳持続性や体型等に優れ、生涯生産性が高い種畜を生産・供給する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ ホルスタイン種について、家畜改良増殖目標による乳量及び乳成分量に関する育種価目標を基に、多様な育種素材の導入を行い牛群を整備し、我が国の飼養環境に適した優良な種畜の生産に取り組んだ。また、その際、民間では取り組み難い未経産採卵技術とドナーの集合検定を組み合わせた高度な繁殖技術等を活用し、泌乳持続性や体型等に優れ、生涯生産性が高い候補種雄牛の生産・供給を行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 中期計画に則した候補種雄牛等生産に取り組んでいることから「B」評価とした。 ＜参考＞ ・ホルスタイン種について、家畜改良増殖目標による乳量及び乳成分量に関する育種価目標を基に多様な育種素材として精液4, 633本及び受精卵1, 190個を導入し、優良な牛群を整備した。 ・未経産採卵技術及びドナーの集合検定を活用し、泌乳及び体型等の能力に優れ、生涯生産性が高い雄子牛を生産し、その中から特に能力の優れた123頭を候補種雄牛として供給した。 ・初産次の泌乳持続性に係る遺伝的能力評価成績が平均（標準化指数が100）以上であったドナーについて3産次までの集合検定を活用し、泌乳持続性が高い雄子牛を生産し、その中から特に能力の優れた3頭を候補種雄牛として供給した。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ウ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給 (イ) SNP 情報の活用		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	(イ) 遺伝的及び能力的な多様性の確保に配慮しつつ、SNP遺伝子解析技術を活用した候補種雄牛などの生産・供給に努める。	(イ) 候補種雄牛及び改良用雌牛の生産・供給に当たっては、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、精度の高い選定を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、雄子牛84頭及び改良用雌牛71頭の生産を行った。また、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値が特に優れた112頭を後代検定の候補種雄牛として供給し、計画どおり実施した。	B	評価 B	評価
						<評価に至った理由> 中期計画どおり、候補種雄牛及び改良用雌牛の生産・供給SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、精度の高い選定を行っていることから「B」評価とした。 <参考> ・ホルスタイン種について、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値が明らかな雌牛のうち、特に能力の優れたものから、雄子牛84頭及び改良用雌牛71頭の生産を行った。 ・後代検定の候補種雄牛として、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値が特に優れた112頭を供給した。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ウ-(ウ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給 (ウ) 泌乳持続性に優れる改良用雌牛の作出		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(ウ) 高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛などを生産・供給するため、泌乳持続性の遺伝評価値が平均以上で、家畜改良増殖目標の育種目標数値（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を生産する。	(ウ) 高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛などを生産・供給するため、受精卵移植技術と3産次までのドナーの泌乳持続性を明らかにするドナーの集合検定システムを活用することにより、泌乳持続性において評価成績が平均以上の優良な改良用雌牛を作出する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛などを生産・供給するため、受精卵移植技術を活用するとともに、ドナーの3産次までの集合検定を行うことにより、次世代の候補種雄牛生産の基礎とするため、泌乳持続性の遺伝的能力評価成績が全国平均以上の改良用雌牛を1,043頭作出し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						<評価に至った理由> 中期計画を踏まえ、優良な改良用雌牛の作出に取り組んでいることから「B」評価とした。 <参考> ・受精卵移植技術を活用し、高い泌乳持続性を有する候補種雄牛などを生産した。 ・初産次の遺伝的能力評価成績において、泌乳持続性評価が平均（標準化指数が100）以上であったドナー233頭について、2産次集合検定を行った。 ・2産次の集合検定を終了した泌乳持続性ドナー58頭について、3産次集合検定を行った。 ・これらドナーの集合検定システムなどを活用することにより、泌乳持続性の遺伝的能力評価成績が全国平均以上の改良用雌牛1,043頭を作出し、これらの改良用雌牛から次世代のドナーを選定した。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-（1）-ウ-（エ）	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 （1）乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給 （エ）泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
遺伝的改良量										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261
乳量（kg／年）	113kg		354.1kg	230.8kg	221.1kg	186.6kg				決算額(千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191
乳脂肪量（同上）	2.6kg		11.4kg	9.1kg	9.3kg	7.5kg				経常費用(千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680
無脂乳固形分（同上）	9.2kg		26.3kg	19.0kg	17.7kg	15.7kg				経常利益(千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619
乳タンパク量（同上）	5.9kg		9.7kg	7.2kg	6.6kg	5.9kg				行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420
										従事人員数	991	981	972	966
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）
	（ウ）高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛などを生産・供給するため、泌乳持続性の遺伝評価値が平均以上で、家畜改良増殖目標の育種価目標数値（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を生産する。	（エ）未經産ドナーの集合検定システムを活用することにより、家畜改良増殖目標の育種価目標数値（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を生産する。	指標＝2007年生まれと比較して、2008生まれの改良用雌牛の年当たり改良量が基準を上回っている形質の割合 S：目標値に対する達成割合が120%以上であり、かつ特に優れた成果が認められた場合 A：目標値に対する達成割合が120%以上 B：目標値に対する達成割合100%以上120%未満 C：目標値に対する達成割合80%以上100%未満 D：目標値に対する達成割合が80%未満、又は業務運営の改善その他必要な措置を命ずる必要があると認められる	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、未經産ドナーの集合検定システムを活用することにより、家畜改良増殖目標の育種価目標数値(乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年)以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を1,236頭生産した。	B	評価	A	評価
						<評価に至った理由> センターにおいては、元々優れた資質の雌牛を飼養していることを参酌したとしても専門家の検討の下で策定された家畜改良増殖目標において提示された遺伝的改良量を大きく上回る能力を示す雌牛が生産されたことから「A」評価とした。 <その他事項> 目標値に対す達成度合いが120%以上と思われる「泌乳能力に優れる改良用雌牛の作出」などを「B」と自己評価しているが、メリハリを付けて評価すべき。（有識者会議委員意見）		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-エ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 エ その他		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）
	（エ）酪農家の雌牛を利用して生産した候補種雄牛の待機業務は、順次縮小し終了する。また、候補種雄牛の後代検定への参加については、平成25年度末までに終了する。	エ その他 （ア）センターが自ら候補種雄牛を後代検定に参加させることについては、平成25年度末までに終了する。 （イ）酪農家の雌牛を利用して生産及び導入した候補種雄牛の待機業務は、平成27年度末までに終了する。	指標＝「微項目の項目数×2」（満点）に対する「各微項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	<主要な業務実績> □その他 △後代検定への参加終了 2/2点（B） △候補種雄牛の待機業務終了 2/2点（B） 合 計 4/4点	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点<12/10）であったため。 満 点：4点（微項目2×2点） 合計点：4点＝2点×2 4点/4点＝1.0（10/10） △後代検定への参加終了 2点（B） △候補種雄牛の待機業務終了 2点（B） 合 計 点 4点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-エ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 エ その他 (ア) 後代検定への参加終了		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(エ) 酪農家の雌牛を利用して生産した候補種雄牛の待機業務は、順次縮小し終了する。また、候補種雄牛の後代検定への参加については、平成25年度末までに終了する。	(ア) センターが自ら候補種雄牛を後代検定に参加させることについては、平成25年度末までに終了する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> センター自らが候補種雄牛を後代検定に参加させることを中止し、民間事業者に移行することについて民間事業者等と協議し、平成23年度から候補種雄牛での貸付を行い自らが候補種雄牛を後代検定に参加させることを終了することにより、計画を大きく前倒しして実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 平成23年度末の段階で、センター自身が候補種雄牛を後代検定に参加させることを終了していることから「B」評価とした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-エ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 エ その他 (イ) 候補種雄牛の待機業務終了		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(エ) 酪農家の雌牛を利用して生産した候補種雄牛の待機業務は、順次縮小し終了する。また、候補種雄牛の後代検定への参加については、平成25年度末までに終了する。	(イ) 酪農家の雌牛を利用して生産及び導入した候補種雄牛の待機業務は、平成27年度末までに終了する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 酪農家の雌牛を利用して生産及び導入した候補種雄牛の待機業務は、平成27年度末までに終了することとしており、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 中期計画どおり、業務の終了に向けた取組が着実に実施されていることから「B」評価とした。 <参考> ・酪農家の雌牛を利用し生産した雄子牛の導入は平成22年度をもって中止しており、これに由来する候補種雄牛による後代検定への参加は平成23年度前期をもって終了した。 ・後代検定成績が判明するまでの待機業務を行う候補種雄牛として、平成23年度当初には75頭を飼養していたが、毎年度、判明した後代検定成績に基づいて選抜・淘汰し、平成26年度末には6頭に縮小した。		<評価に至った理由>

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	(2) 肉用牛 ＜以下略＞	(2) 肉用牛 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ◇肉用牛 □全国的な改良の推進 2/2点（B） □遺伝的能力評価の実施 2/2点（B） □候補種雄牛等の生産・供給 2/2点（B） 合 計 6/6点	B	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点<満点×12/10）であるため。 満 点：6点(細項目3×2点) 合計点：2点×3＝6点 6点/6点＝1.0＝10/10 □全国的な改良の推進 2点（B） □遺伝的能力評価の実施 2点（B） □候補種雄牛等の生産・供給 2点（B） 合 計 点 6点	評価

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ア-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ア 全国的な改良の推進 (ア) 全国的な肉用牛の改良推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
											従事人員数	991	981	972	966	
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(ア) 全国的な肉用牛の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者との意見・情報交換において、積極的に指導的役割を果たすとともに、都道府県、関係団体などとの役割分担の明確化を図る。	(ア) 全国的な肉用牛の改良推進を図るため、センターが農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験を参集して会議を開催し、我が国における家畜改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、業務に反映する。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、技術的助言、連携協力を行う等指導的な役割を果たす。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 全国的な肉用牛の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、「肉用牛評価技術検討会」等を開催し、我が国における肉用牛の改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、早熟性、飼料利用性及び繁殖性に係る新たな遺伝的能力評価手法の導入に向けた検討などの業務に反映した。また、都道府県等が開催する肉用牛の改良に関する各種会議に積極的に参画し、肉用牛改良をめぐる情勢を説明するなどの技術的助言や肉用牛改良事業に係る連携協力を行う等により指導的な役割を果たし、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 中期計画どおり、関係者を参集した全国会議の開催、肉用牛改良に関する各種会議への積極的な参加と技術的助言、連携協力を行うなど肉用牛改良において指導的な役割を果たしていると思込まれることから「B」評価とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ア-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ア 全国的な改良の推進 (イ) 広域後代検定の推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	(イ) 遺伝的能力の高い検定済種雄牛の広域的な利用を図るため、全国同一基準による評価を行う後代検定を推進する。	(イ) 毎年、全国同一基準による遺伝的能力評価を行い、この評価結果に基づいて選抜された能力の高い検定済種雄牛についてその精液の広域的な利用を推進する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 毎年、全国同一基準による遺伝的能力評価を行い、この評価結果を全都道府県に提供するとともに、センターが都道府県に対して行った精液利用希望調査結果等に基づき農林水産省が選定した能力の高い共同利用種雄牛について、その精液を32県に配布することなどにより広域的な利用を推進し、計画どおり実施した。	B	評定	B	評定	
						＜評定に至った理由＞ 中期計画どおり、毎年、全国同一基準による遺伝的能力評価を行っていることから「B」評定とした。			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 イ 遺伝的能力評価の実施		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
		（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)									

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	イ 遺伝的能力評価の実施 ＜以下略＞	イ 遺伝的能力評価の実施 ＜以下略＞	指標＝「微項目の項目数×2」（満点）に対する「各微項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点＜満点×8/10 D：合計点＜満点×5/10	＜主要な業務実績＞ □遺伝的能力評価の実施 △肉用牛枝肉情報全国データベースによる情報提供 2／2点（B） △遺伝的能力の評価・公表 2／2点（B） △評価手法の改善 2／2点（B） 合 計 6／6点	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／10≦合計点＜12／10）であったため。 満 点：6点（微項目2×2点） 合計点：6点＝2点×2 6点／6点＝1.0（10／10） △肉用牛枝肉情報全国データベースによる情報提供 2点（B） △遺伝的能力の評価・公表 2点（B） △評価手法の改善 合 計 点 6点		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-イ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (ア) 肉用牛枝肉情報全国データベースによる情報提供		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(ア) 産肉能力に基づく改良を推進するため、枝肉情報を集計し、改良の基礎情報として提供する。	(ア) 産肉能力に基づく改良を推進するため、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種に係る肉用牛枝肉情報全国データベースに収集された枝肉情報を集計・分析し、改良の基礎情報として関係機関に毎年提供する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 産肉能力に基づく改良を推進するため、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種に係る肉用牛枝肉情報全国データベースに収集された枝肉情報を集計し種雄牛、肥育県、肥育農家毎の枝肉成績について分析を行い、改良の基礎情報として関係機関に毎年提供し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 中期計画に則して、枝肉情報の収集・分析、改良の基礎情報としての提供が実施されていることから「B」評価とした。 <参考> ・毎年、枝肉情報を黒毛和種約293千頭、褐毛和種約3千頭、日本短角種約1千頭分を収集し、平成26年度末までに総計で各々約2,414千頭、19千頭、5千頭を肉用牛枝肉情報全国データベースに蓄積した。 ・黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種については、全国団体、都道府県等からの申請に基づき、枝肉情報を提供するとともに、黒毛和種については四半期毎に種雄牛別情報等を集計し、肥育農家に提供したほか、申請のあった肥育農家に対し個別の集計情報を提供した。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-イ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (イ) 遺伝的能力の評価・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注							
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度		X 5 年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
											従事人員数	991	981	972	966	
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(イ) 全国の改良動向を把握するため、遺伝的能力を定期的に評価し、公表する。	(イ) 全国の改良動向を把握するため、肉用牛枝肉情報全国データベースに蓄積された情報等から、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種の遺伝的能力を定期的に評価し、毎年公表する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 全国の改良動向を把握するため、肉用牛枝肉情報全国データベースに蓄積された情報等から、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種の遺伝的能力について定期的に評価を行い毎年公表し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						<評価に至った理由> 中期計画どおり、遺伝的能力を定期的に評価し、毎年公表していることから「B」評価とした。 <参考> ・各年度毎に肉用牛枝肉情報全国データベースに蓄積された情報を用いて、黒毛和種、褐毛和種（高知系及び熊本系）及び日本短角種の枝肉重量及びBMS等について遺伝的能力の評価を行い、得られた全国の改良動向を毎年3月に公表した		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-イ-(ウ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 イ 遺伝的能力評価の実施 (ウ) 評価手法の改善		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）
	（ウ）肉質以外の早熟性、飼料利用性及び繁殖性に係る形質を評価に加味するなど、新たな評価手法の導入に向けた取組を行う。	（ウ）遺伝的能力評価手法について、肉質以外の早熟性、飼料利用性及び繁殖性に係る形質データの収集状況を踏まえ、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、新たな評価手法の導入に向けた取組を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 遺伝的能力評価手法について、肉質以外の早熟性、飼料利用性及び繁殖性に係る形質データの収集状況を踏まえ、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、繁殖性については評価モデルを作成し、早熟性及び飼料利用性については試行に向けた検討を行い、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 中期計画に則して新たな評価方法の導入に向けた取組を実施していることから「B」評価とした。 ＜参考＞ ・（独）農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所などの学識経験者等の参画を得て、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、早熟性、飼料利用性及び繁殖性に係る新たな評価手法の導入に向けた検討を行った。 ・これらの検討結果を踏まえ、繁殖性については遺伝的能力評価に向けた評価モデルを作成することとし、さらに早熟性及び飼料利用性については、遺伝的能力評価の試行に向け検討を行うこととした。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
											従事人員数	991	981	972	966	
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
	ウ 候補種雄牛などの生産・供給 ＜以下略＞	ウ 候補種雄牛等の生産・供給 ＜以下略＞	指標＝「微項目の項目数×2」（満点）に対する「各微項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各微項目の評価結果の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点<満点×5/10	＜主要な業務実績＞ □候補種雄牛等の生産・供給 △黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給 2／2点（B） △増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産 2／2点（B） △黒毛和種における飼料利用性、早熟性等に関する検定手法の開発 2／2点（B） △褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給 2／2点（B） △日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の生産・供給 2／2点（B） 合 計 10／10点	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である微項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8／10≦合計点<12／10）であったため。 満 点：10点（微項目5×2点） 合計点：10点＝2点×5 10点／10点＝1.0（1／10） △黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給 2点（B） △増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産 2点（B） △黒毛和種における飼料利用性、早熟性等に関する検定手法の開発雄系品種の肉質改良 2点（B） △褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給 2点（B） △日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の生産・供給 2点（B） 合 計 点 10点			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ウ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給 (ア) 黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
	(ア) 黒毛和種については、 ① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。 ＜以下略＞	(ア) 黒毛和種について、多様な育種素材の導入を行い、基礎となる4系統群や5つの希少系統を積極的に活用することにより遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、民間等では取り組み難い生体卵胞卵子吸引技術、体外受精技術等の高度な技術を活用し、遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛等を生産・供給する。 ＜以下略＞	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 黒毛和種について、多様な育種素材の導入を行い、基礎となる4系統群や5つの希少系統を積極的に活用することにより遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、民間等では取り組み難い生体卵胞卵子吸引技術、体外受精技術等の高度な技術を活用して平成26年度末までに1,341頭の雌牛群を整備した。また、遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産し、後代検定候補種雄牛として70頭を供給し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価
						＜評価に至った理由＞ 中期計画どおり、遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛等を生産・供給していることから「B」評価とした。 ＜参考＞ ・育種素材の収集については、黒毛和種の基礎となる4系統群や5つの希少系統に係る遺伝子保有確率、血統等を考慮し、県、関係団体、農協等から精液 6,868本、受精卵 423個及び雌牛 53頭を選定・導入した。 ・生体卵胞卵子吸引技術、体外受精技術等の高度な技術を活用しつつ雄子牛を生産し、遺伝的多様性の確保や高い増体性等が期待される186頭について、直接検定を実施した。 ・直接検定を実施した雄子牛のうち70頭を、後代検定候補種雄牛として民間人工授精事業体に供給した。		

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報				
第2-1-(2)-ウ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給 (イ) 増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産			
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号家畜改良増殖法第3条の4	
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035	

2. 主要な経年データ															
	① 要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	合計			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
	直接検定 実施頭数 （頭）			7	5	1 2	1 6	4 0		予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
	1 日あたり 増体量 （kg／日）	1.1 以上		1.1 9	1.1 5	1.1 8	1.1 3	1.1 6		経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	(ア) 黒毛和種については、 ① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。 <以下略>	(イ) 増体性に優れた黒毛和種候補種雄牛の生産に当たっては、適度に脂肪交雑を維持しつつ、毎年遺伝的能力評価等を活用することにより、直接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1kg以上の候補種雄牛を生産する。	指標＝1日当たりの増体量 S：目標値に対する達成割合が110%以上であり、かつ特に優れた成果が認められた場合 A：目標値に対する達成割合が110%以上 B：目標値に対する達成割合が90%以上110%未満 C：目標値に対する達成割合が70%以上90%未満 D：目標値に対する達成割合が70%未満、又は業務運営の改善その他必要な措置を命ずる必要があると認められる	<主要な業務実績> 増体性に優れた黒毛和種候補種雄牛を生産するため、毎年度、遺伝子保有確率等を活用して選抜した雄子牛について直接検定を実施した。本中期期間中に直接検定を実施した40頭の1日当たり増体量の平均値は1.16kgであり、目標の1.1kg以上を達成した。	B	評価	B
						<評価に至った理由> 中期計画に示した目標値を達成していることから「B」評価とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-（2）-ウ-（ウ）	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 （2）肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給（ウ）黒毛和種における飼料利用性、早熟性等に関する検定手法の開発		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ											
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報										
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			
									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注		
										H23年度	H24年度
									H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327
									従事人員数	991	981
									（うち常勤職員）	(807)	(790)

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
	（ア）黒毛和種については、 ① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。 ＜以下略＞	（ウ）飼料利用性、早熟性等に関して、これらに係る形質データの収集を継続的にを行い、検討会を毎年開催し、検定手法の開発に取り組む。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	＜主要な業務実績＞ 黒毛和種の飼料利用性、早熟性等について、これらに係る形質データを収集するための調査を行うとともに、学識経験者などから構成される検討会を毎年開催し、検定手法について検討を行い、調査方法等を決定するとともに、調査牛を生産して調査を開始し、計画どおり実施した。	B	評価	B	評価	
						＜評価に至った理由＞ 中期計画どおり、飼料利用性、早熟性等に係る検定手法の開発に取り組んでいることから「B」評価とした。 ＜参考＞ ・平成24年10月から調査牛を生産するための交配を開始するとともに、平成26年7月から調査を開始し、飼料利用性、早熟性等に係る形質データを収集した。 ・黒毛和種の飼料利用性及び早熟性の検定手法開発に供する候補種雄牛を選定し、調整交配を実施するとともに、調査牛を生産し、調査を開始した			

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ウ-(エ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・供給 (エ) 褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	(イ) 褐毛和種については、我が国の肉用牛の多様性を確保するため、遺伝的に特徴のある牛群を維持し、種畜を生産・供給する。	(エ) 褐毛和種について、関係都道府県等より育種素材を収集することにより、多様な育種素材の導入を行い、遺伝的に特徴のある牛群を維持し、卵巣から採取した卵子を利用した体外受精技術等の民間等では取り組み難い高度な技術を活用しつつ、種畜を生産・供給する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた A：計画を上回る成果が得られた B：計画どおり順調に実施された C：計画どおり実施されず、改善を要する D：計画どおり実施されず、当該業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める必要があると認められる	<主要な業務実績> 褐毛和種について、関係都道府県等より多様な育種素材を収集し、遺伝的に特徴のある牛群を維持するとともに、卵巣から採取した卵子を利用した体外受精技術等の民間等では取り組み難い高度な技術を活用して種畜を生産し、後代検定候補種雄牛として4頭を供給し、計画どおり実施した。	B	評価	B
						<評価に至った理由> 中期計画に沿った種畜の生産供給等が実施されていることから「B」評価とした。 <参考> ・育種素材の収集については、血統等を考慮し、県、農協等から平成26年度までに精液513本、受精卵22個及び卵巣21頭分を選定・導入し、牛群を維持した。 ・遺伝的多様性の確保が期待される11頭について、平成26年度までに直接検定を実施した。 ・直接検定を実施した雄子牛のうち4頭を、後代検定候補種雄牛として供給した。 ・体外受精等の高度な技術を活用して生産した後代検定候補種雄牛の能力を把握するため、県、関係団体等と協力し、現場後代検定を実施した。	

4. その他参考情報

